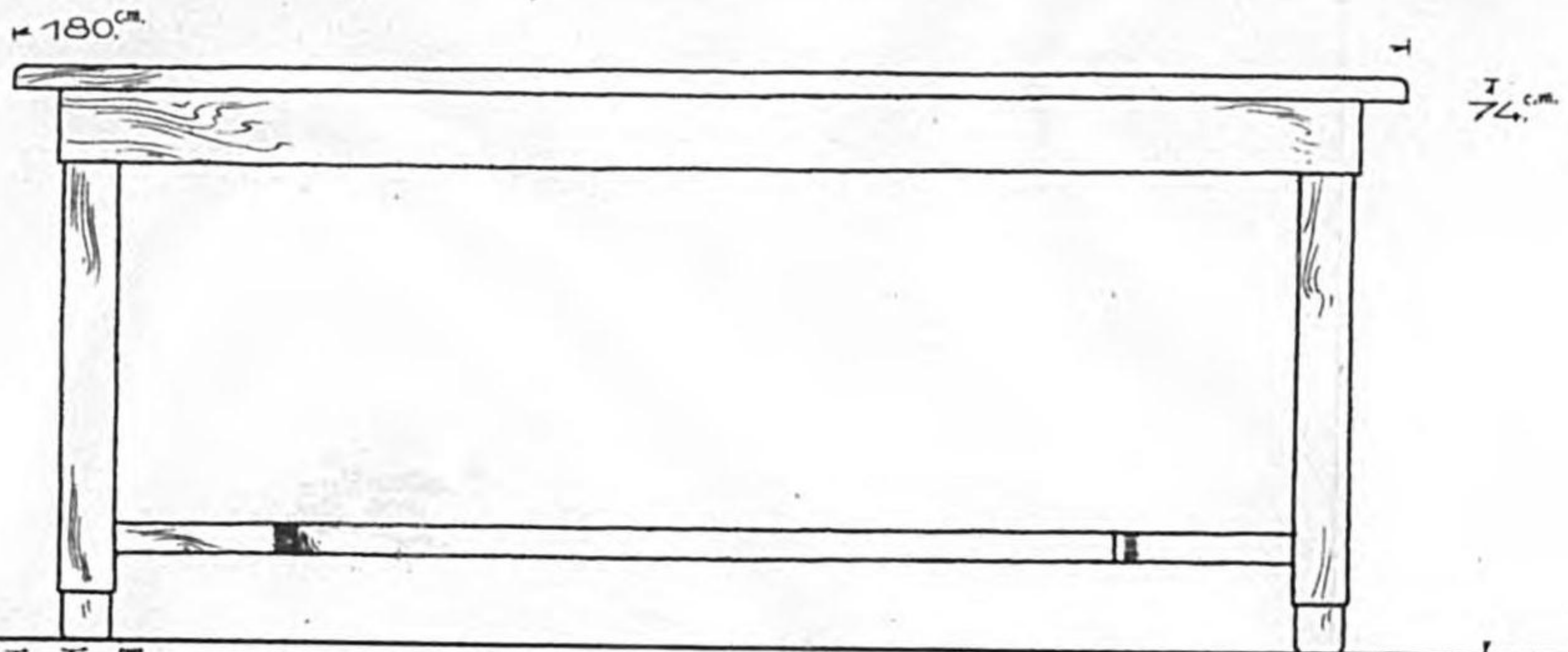


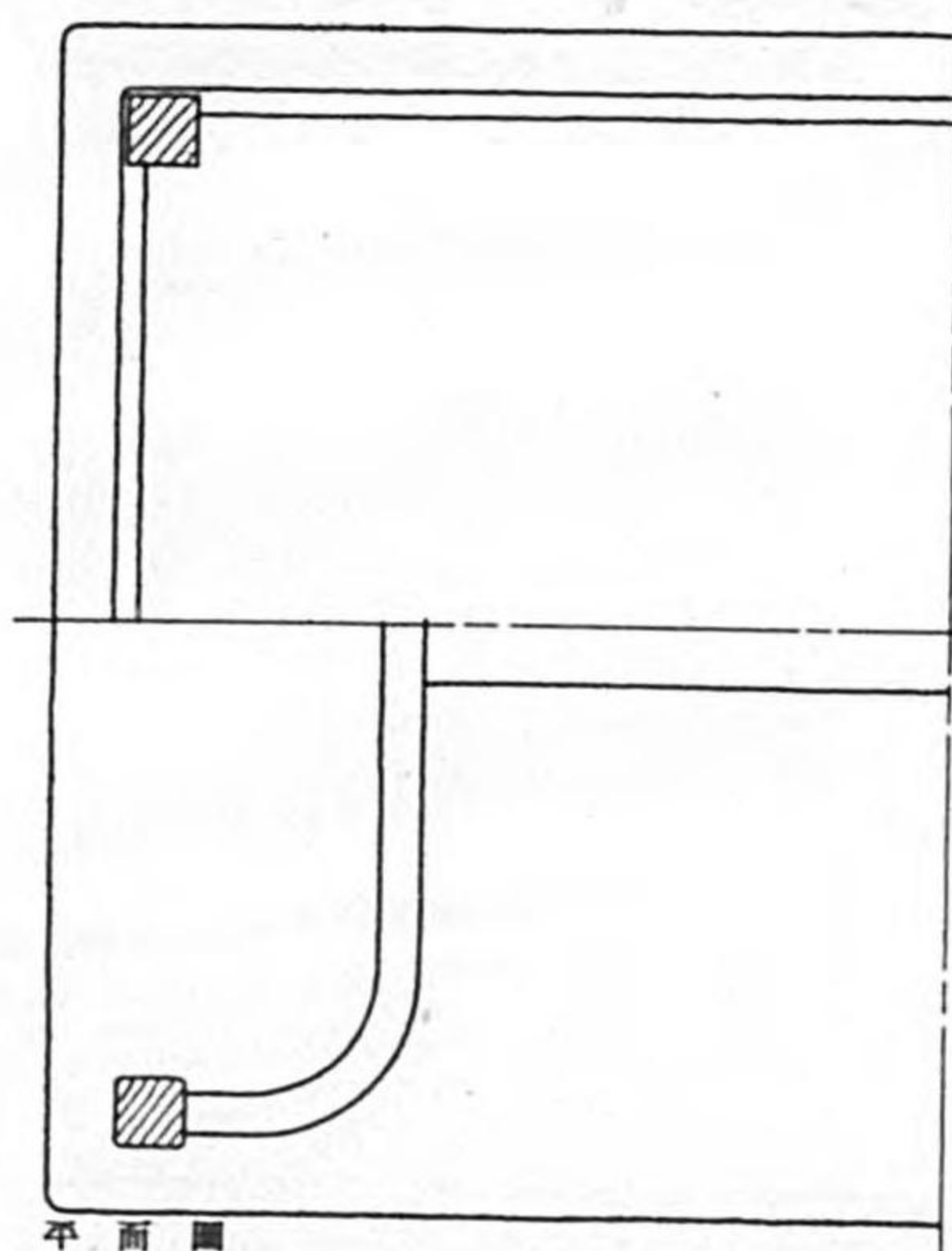
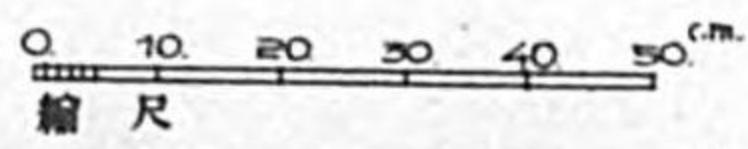
食 堂 用 桌 子



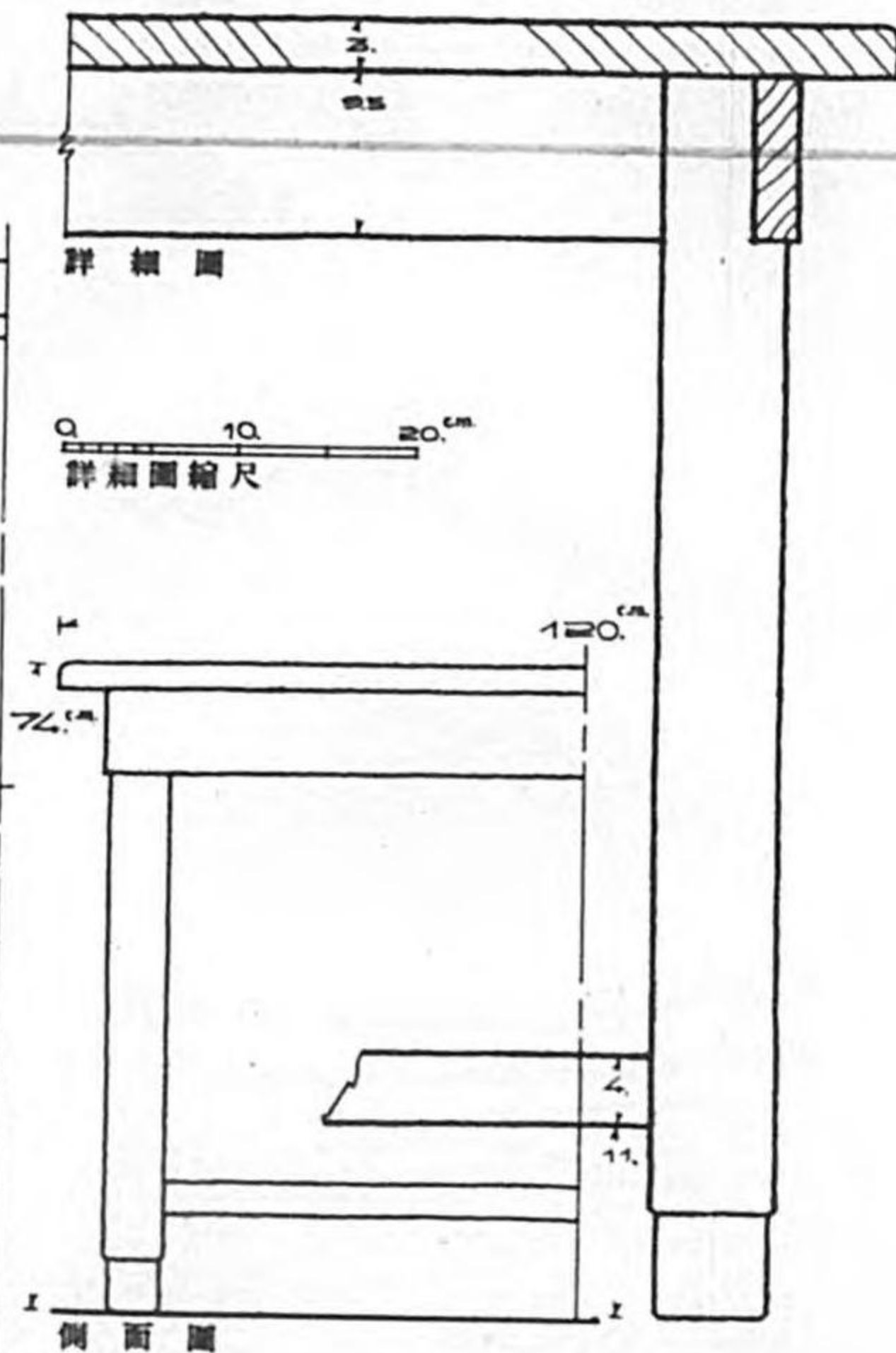
食 堂 用 桌 子



正 面 圖



平 面 圖

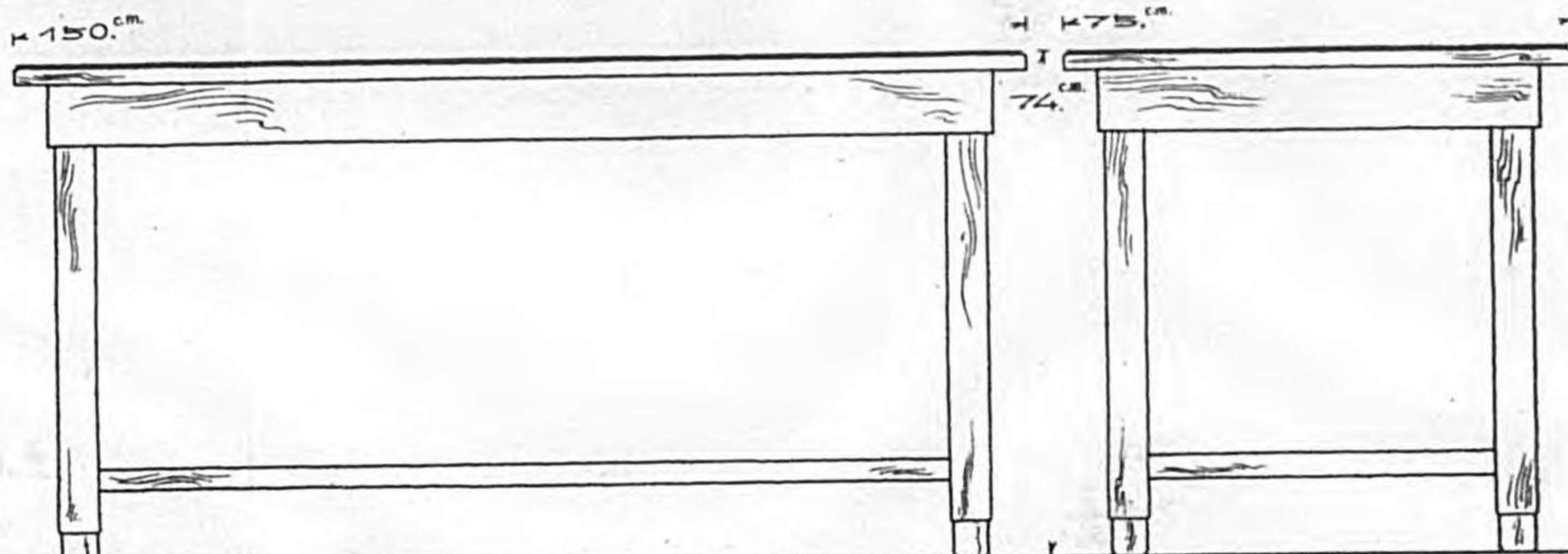


側 面 圖



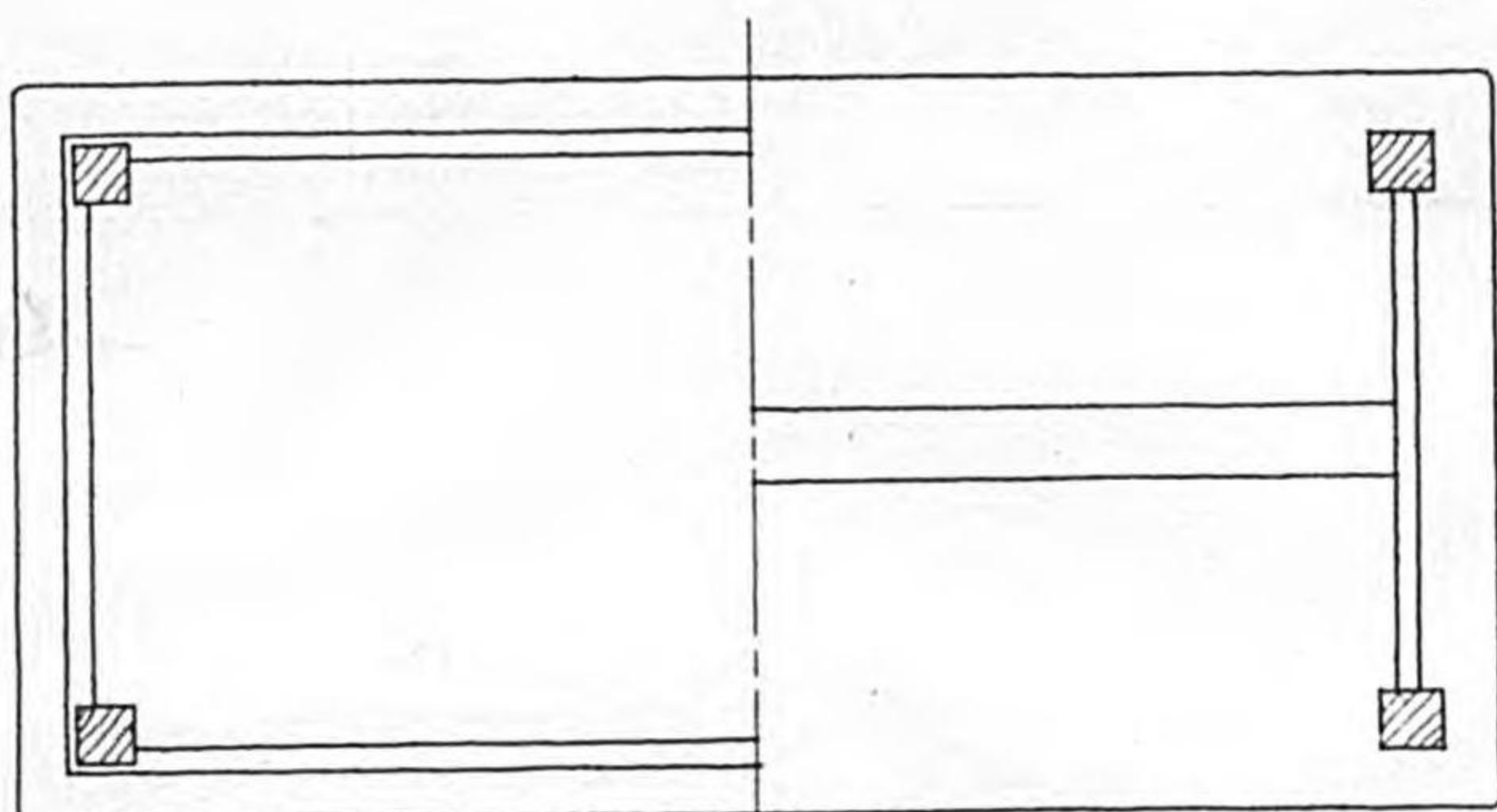


會議用桌子

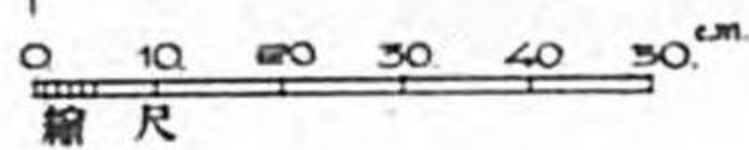


正面圖

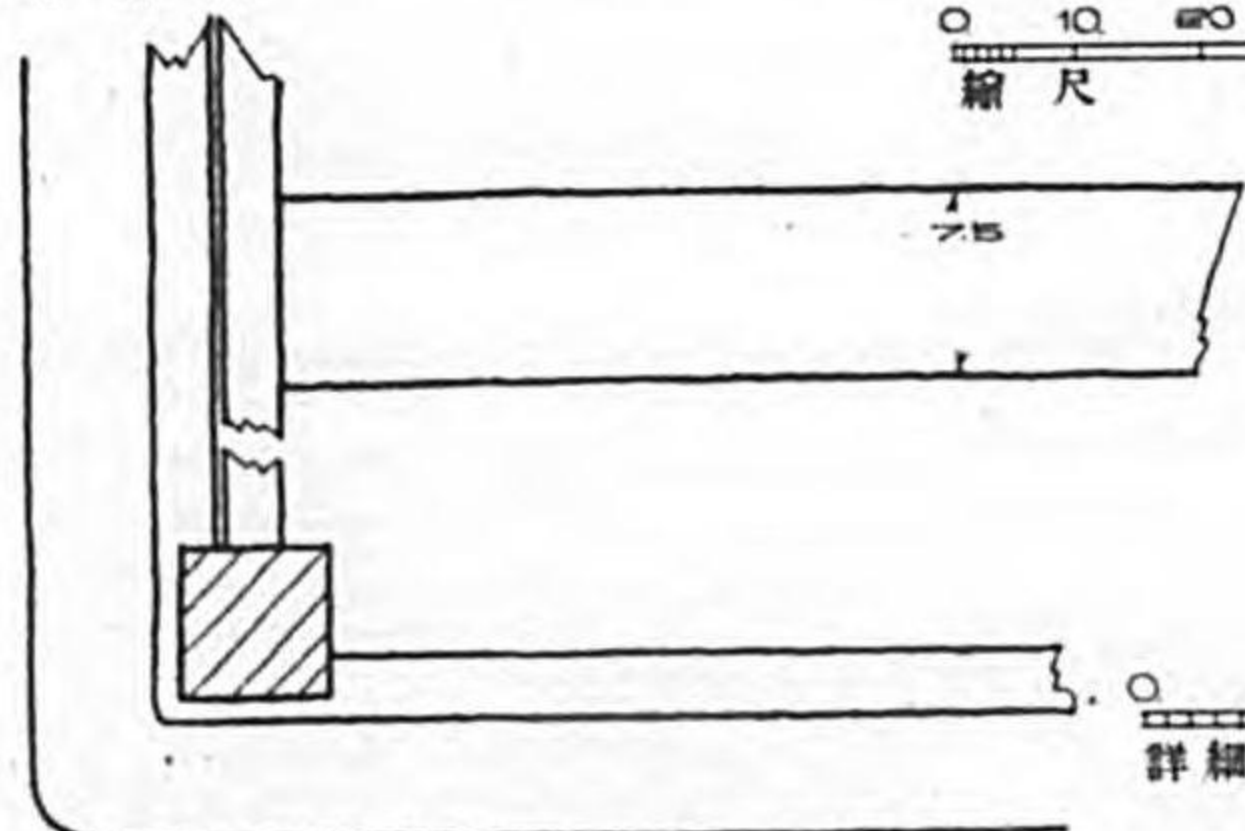
側面圖



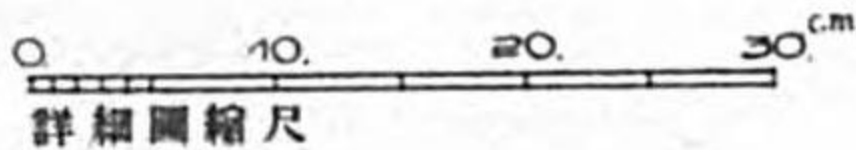
平面圖



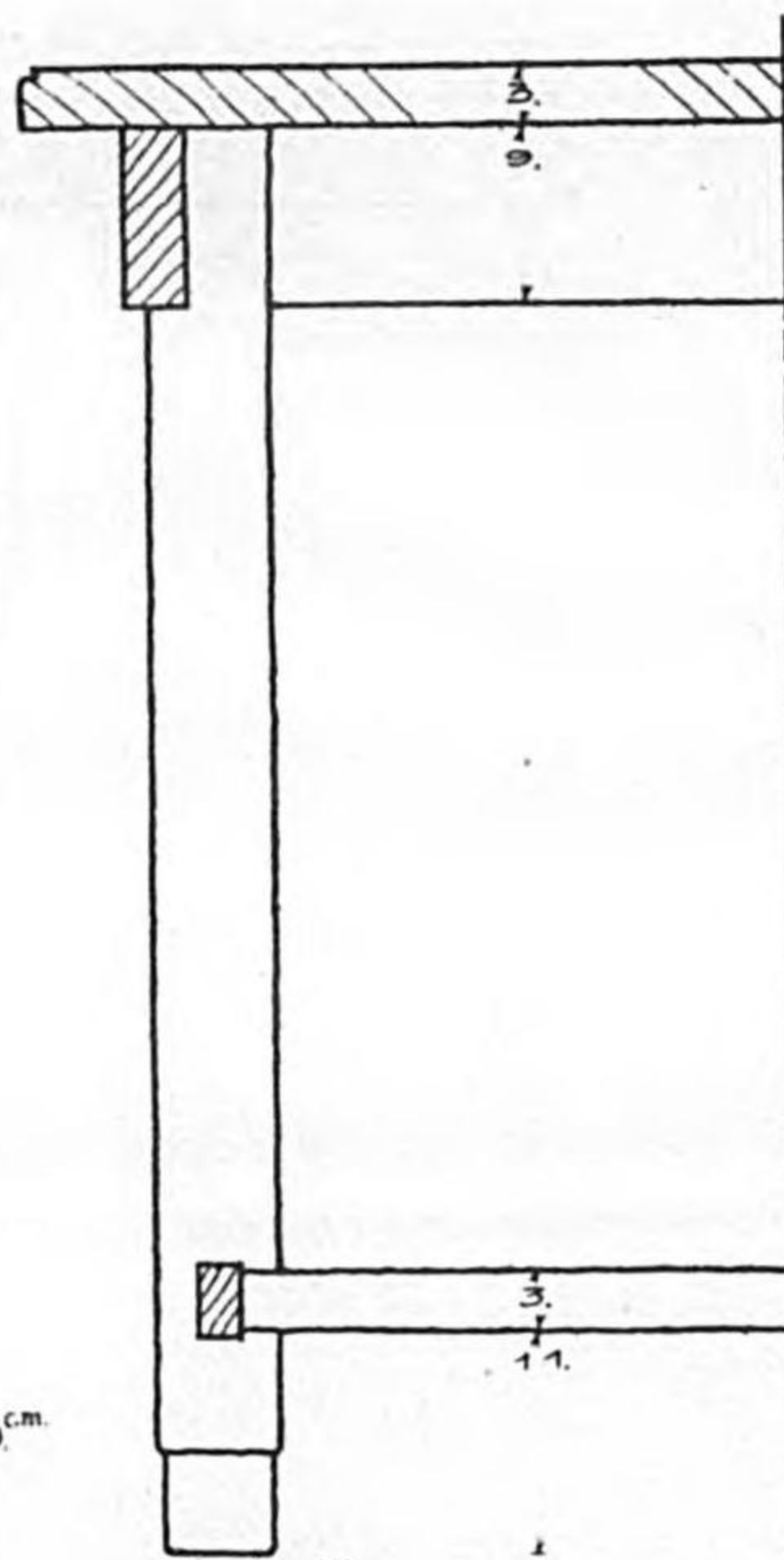
縮尺



詳細圖



詳細圖縮尺

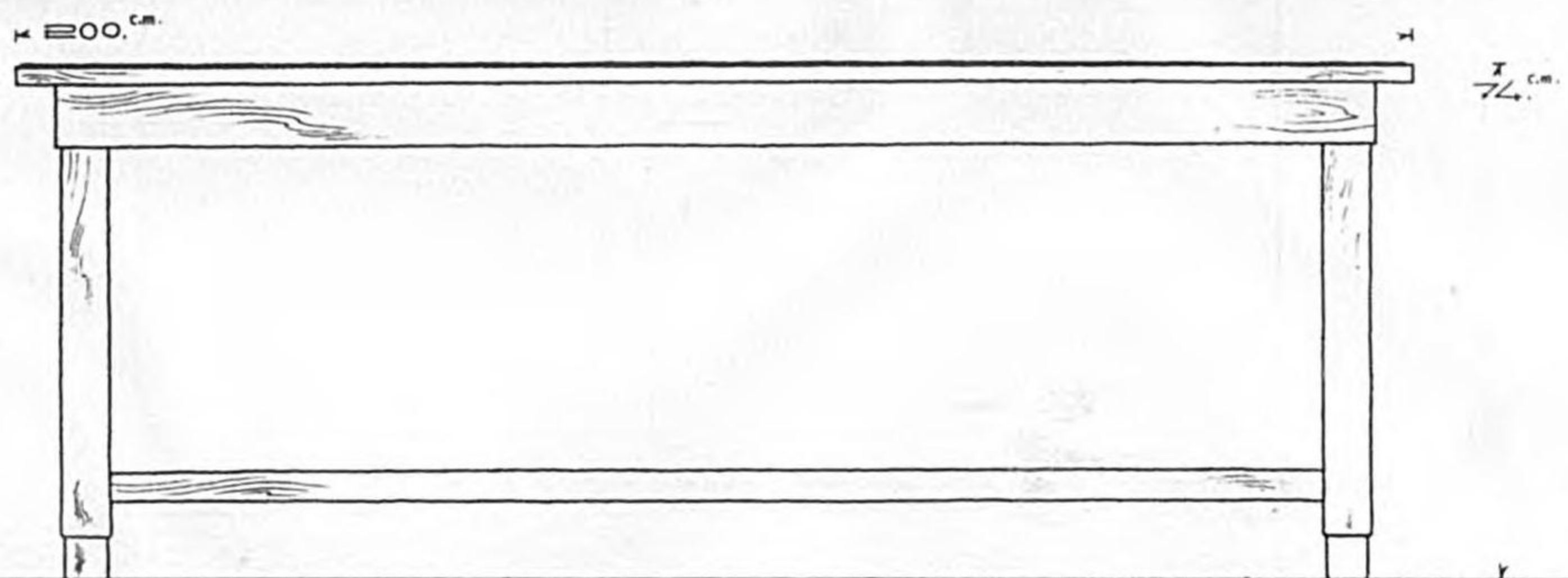


詳細圖

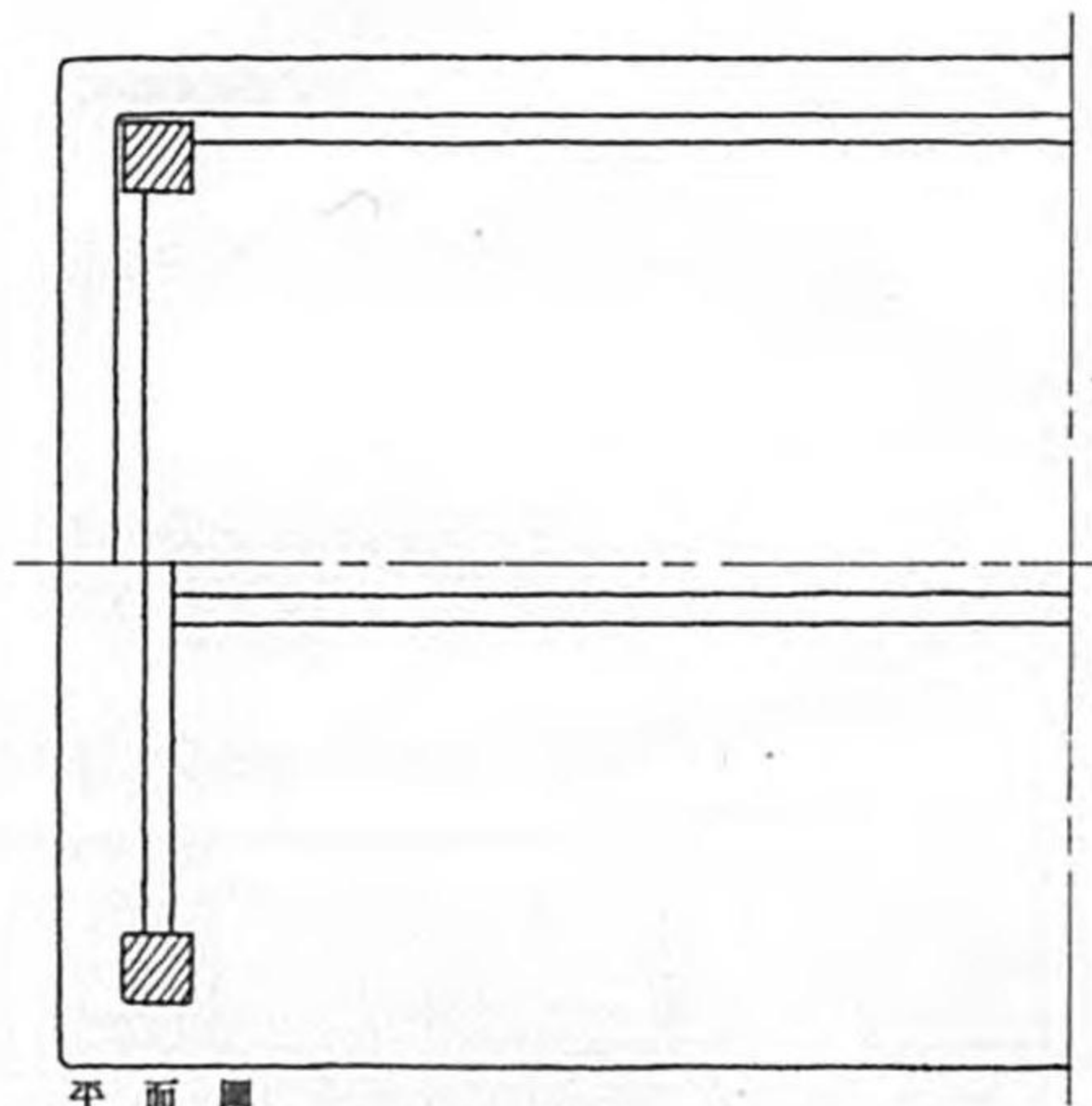
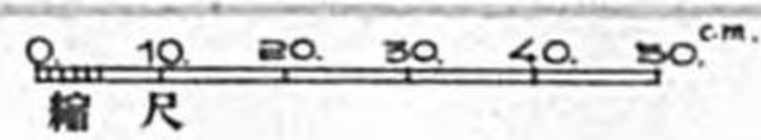




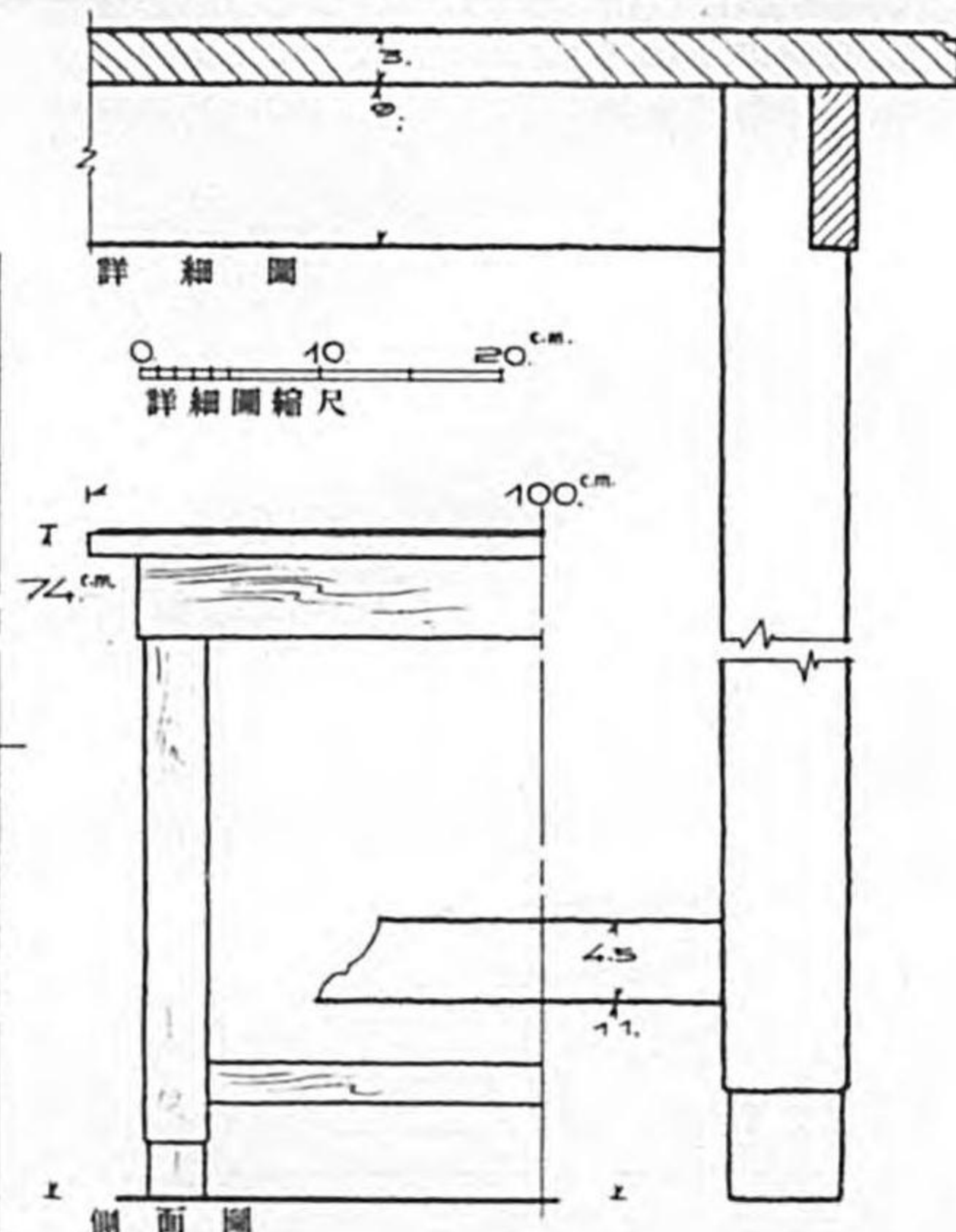
會議用桌子



正面圖



平面圖



詳細圖

詳細圖縮尺

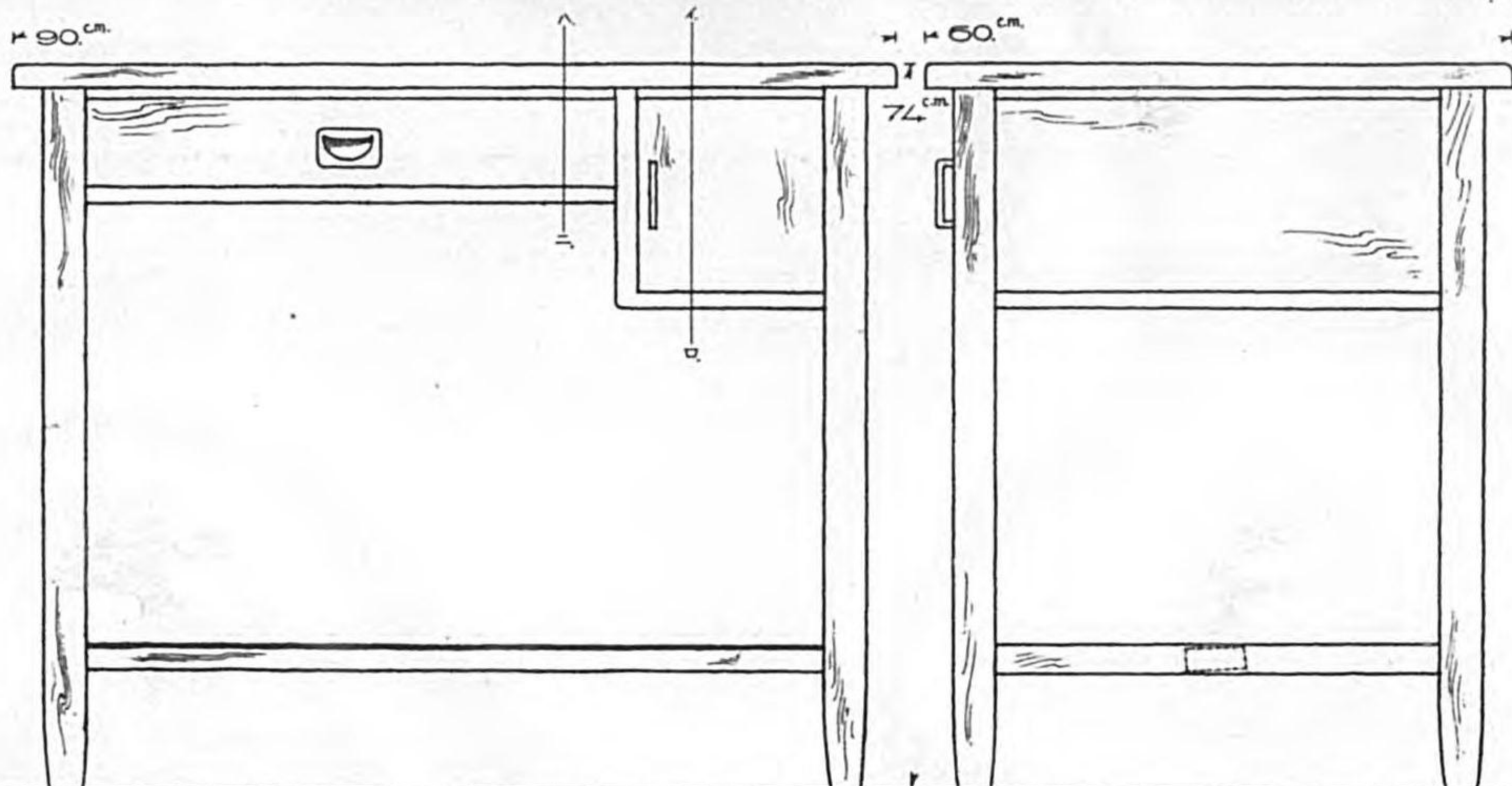
側面圖





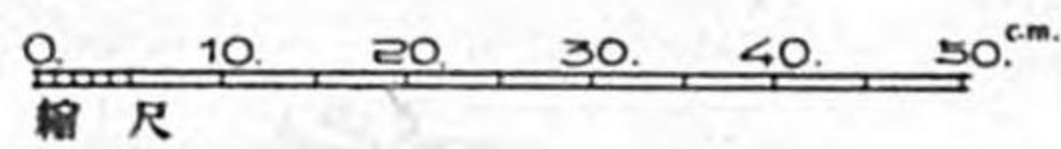
事務用机 正面

事務用机 背面

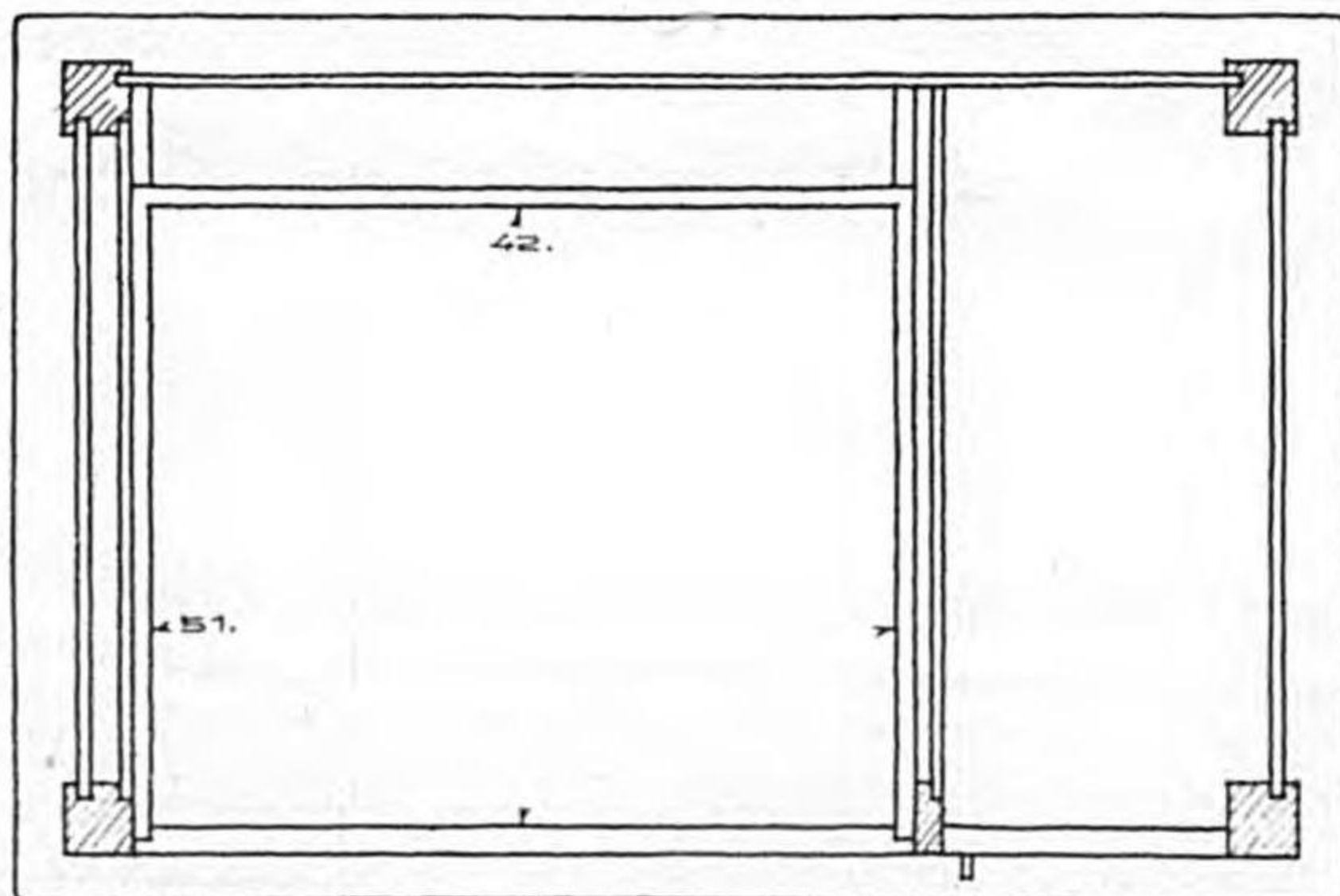


正面圖

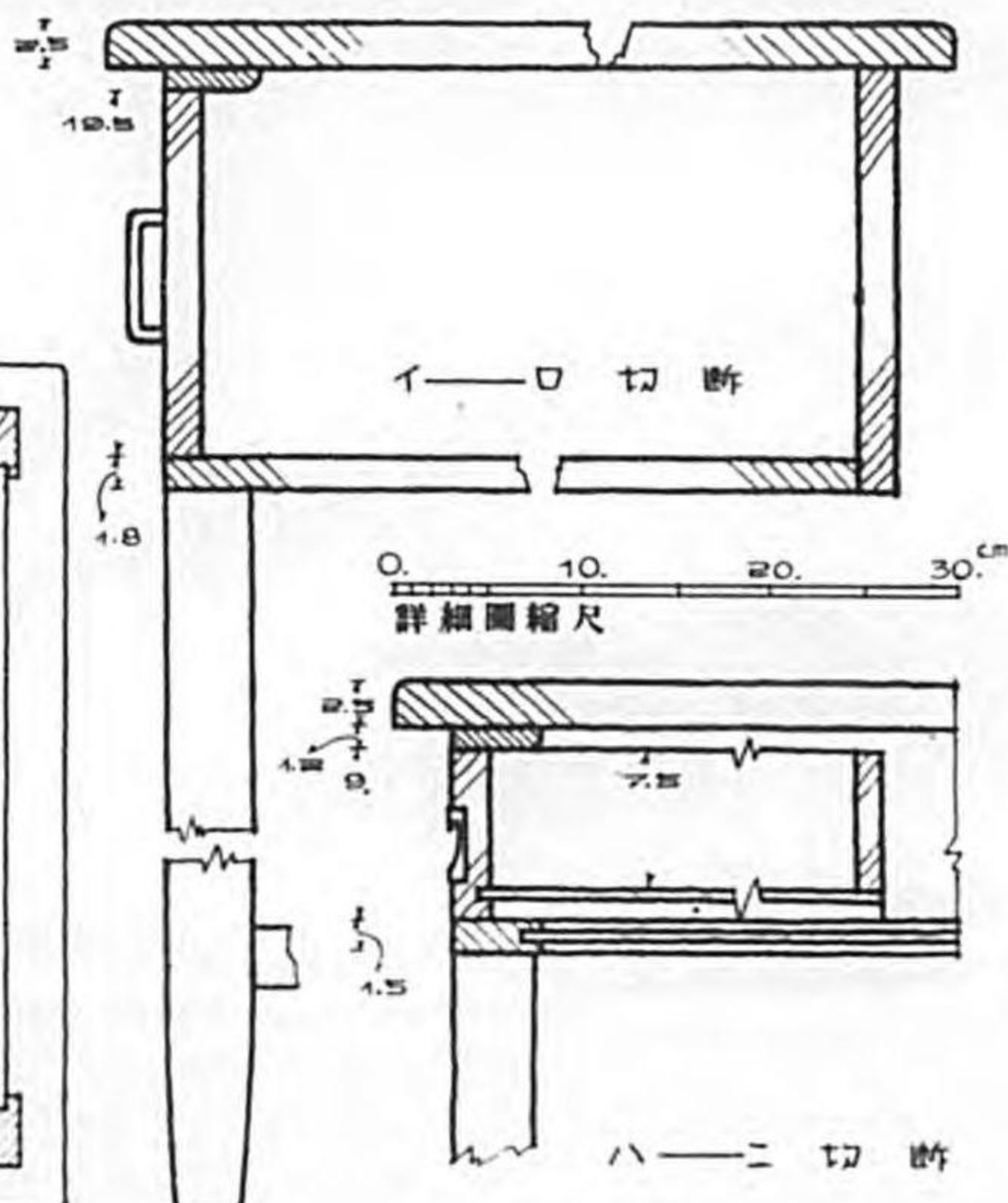
側面圖



縮尺



平面圖



詳細圖縮尺

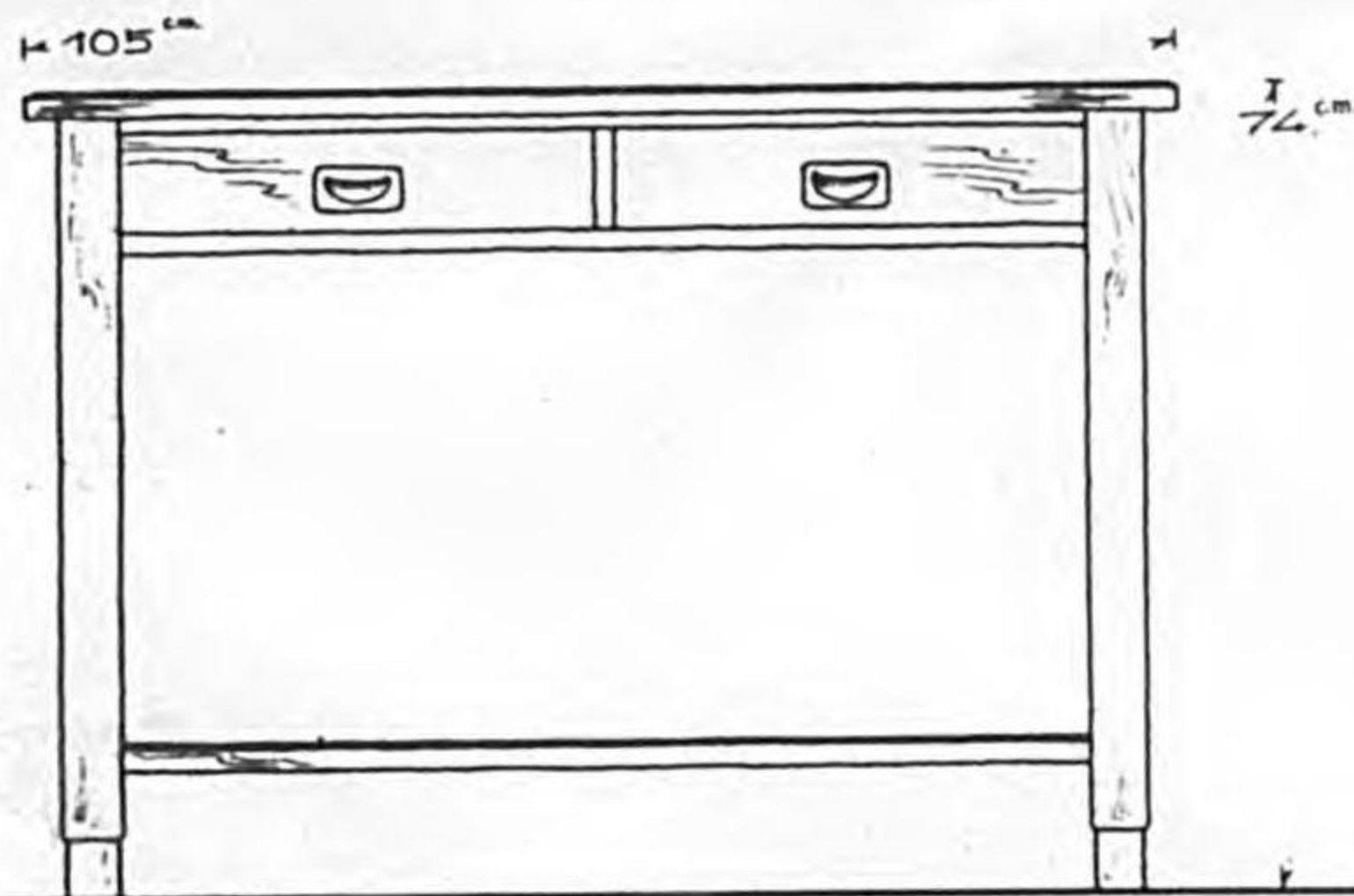




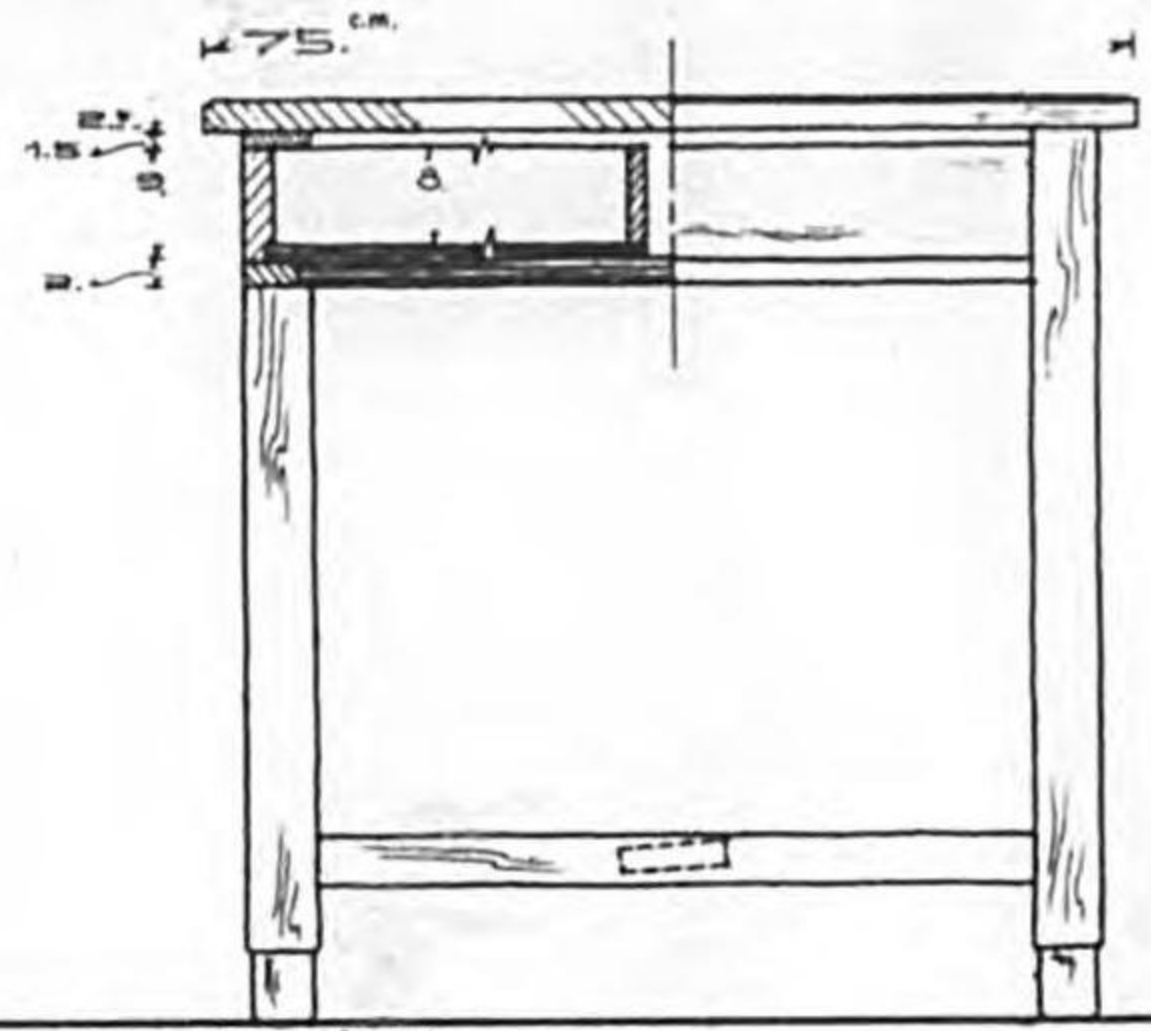
事務用机・腦卓子正面



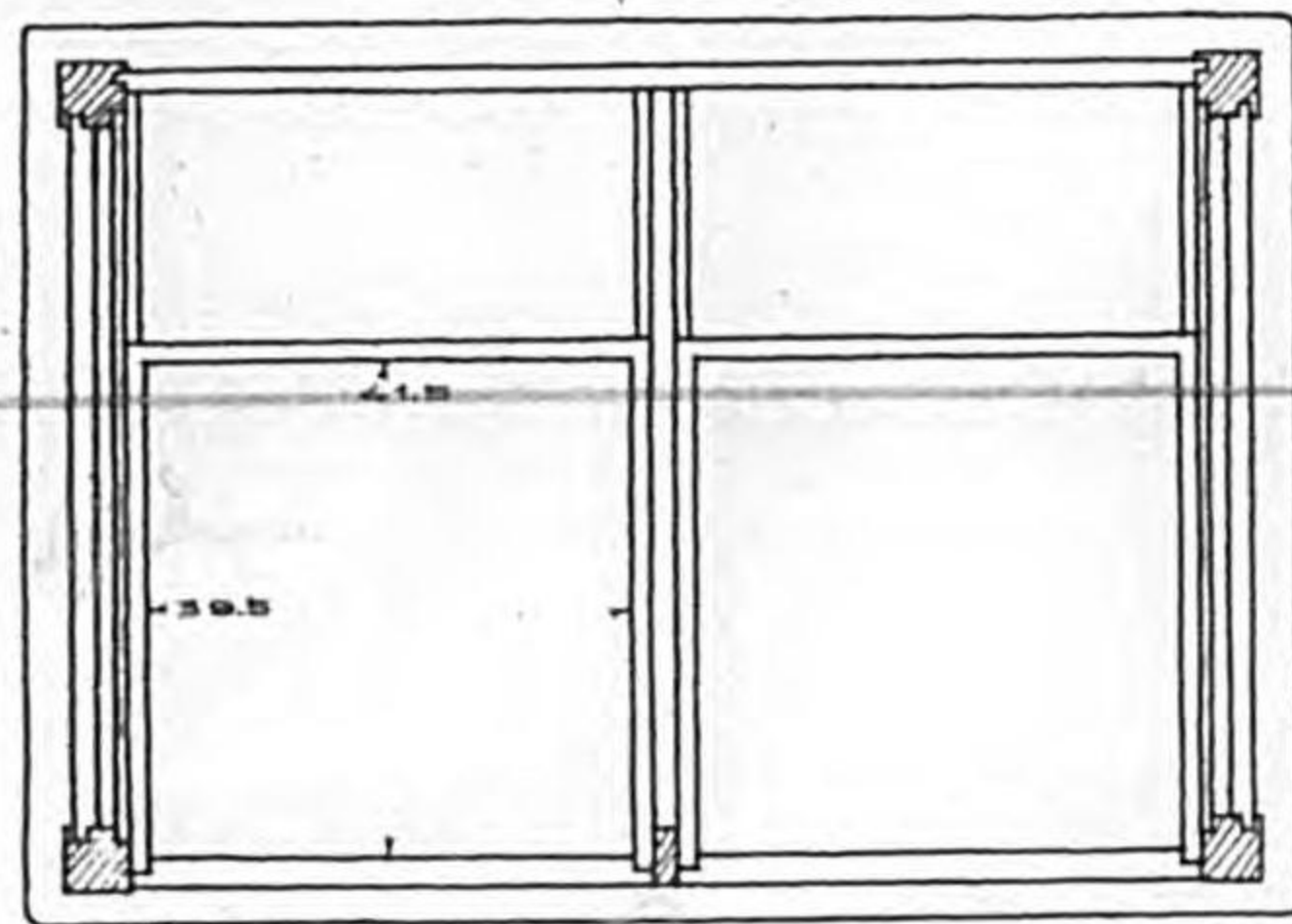
事務用机 背面



正面圖

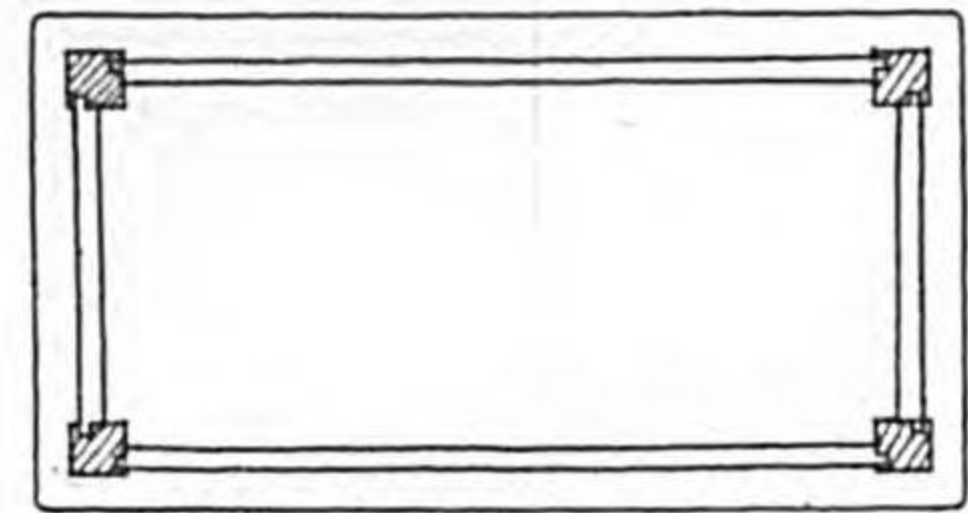


側面圖

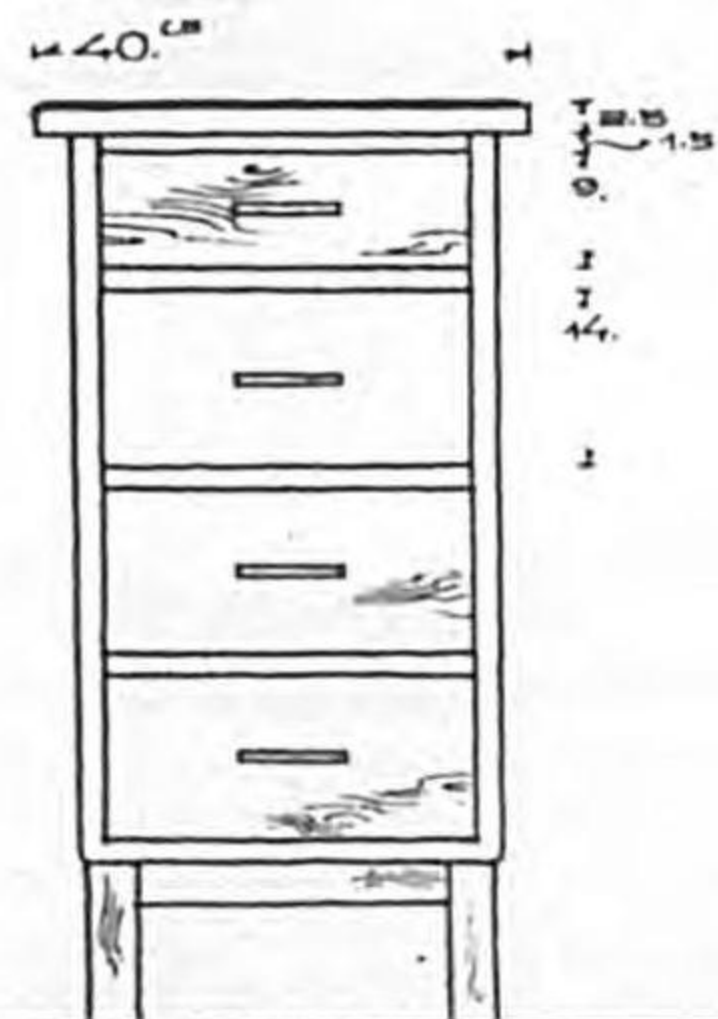


平面圖

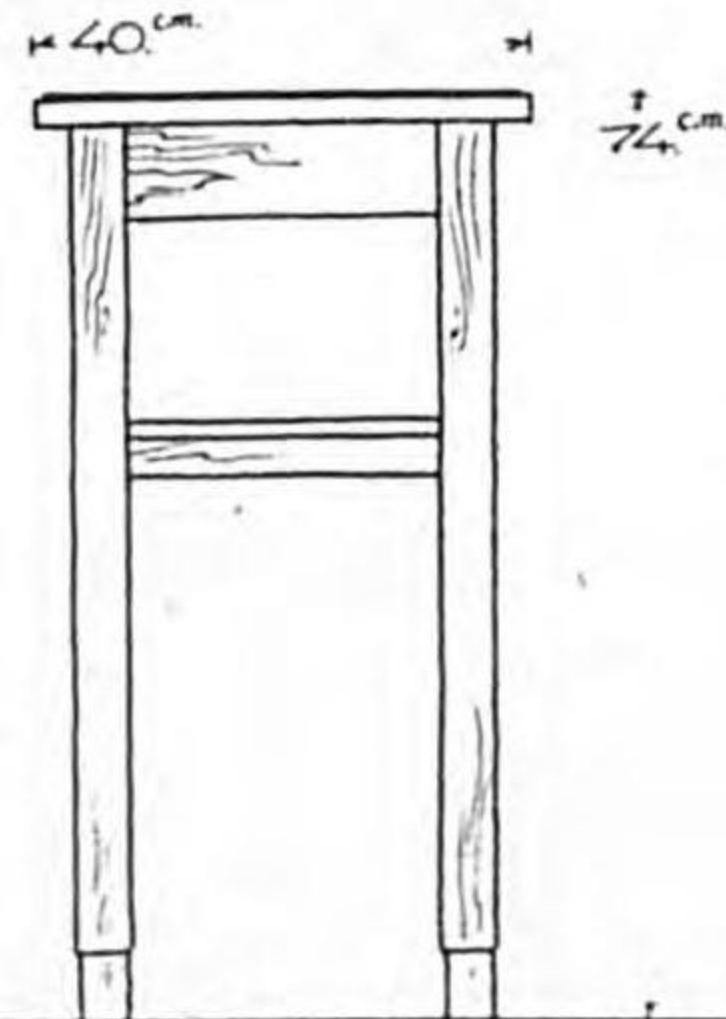
0 10 20 30 40 50 cm  
繪尺



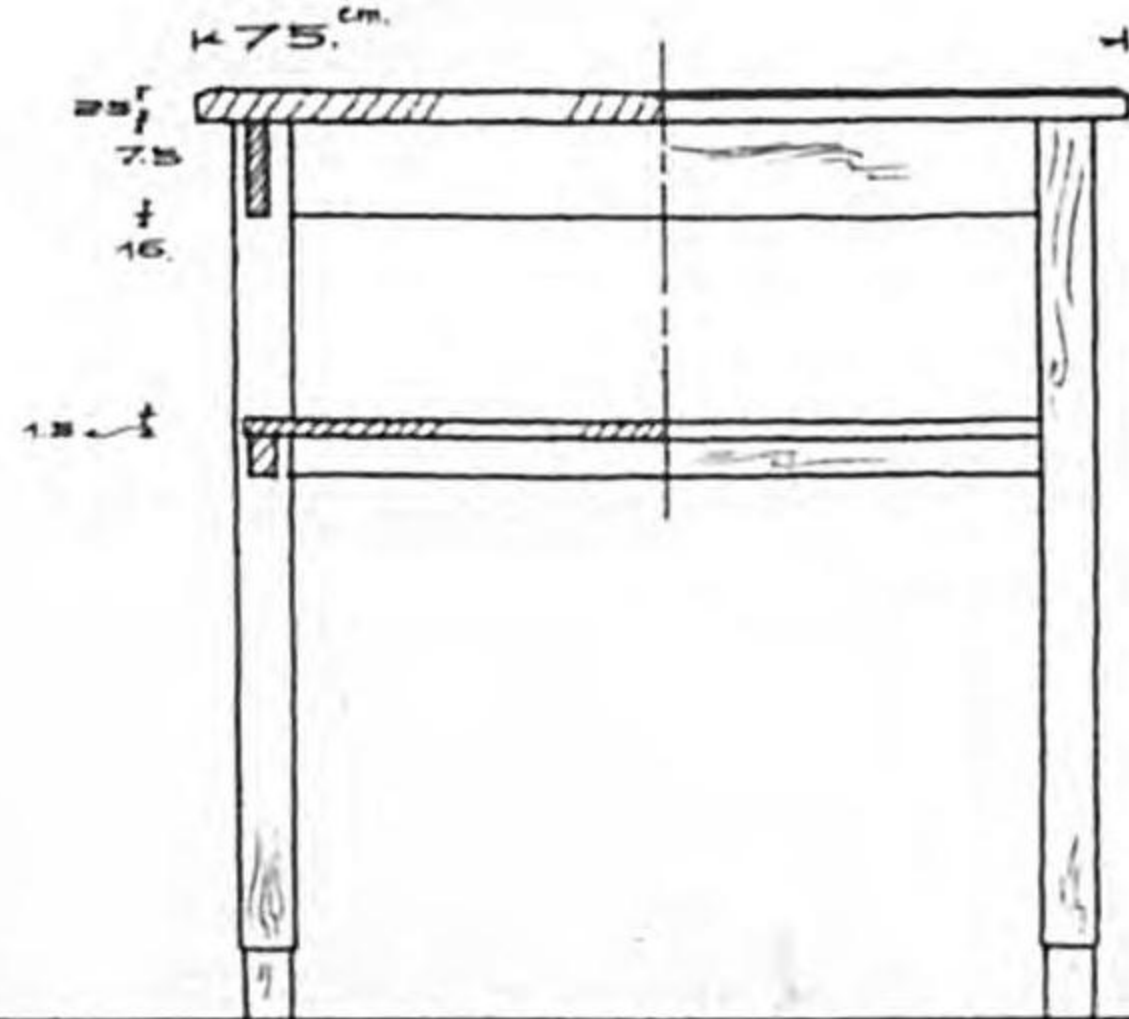
平面圖



正面圖(抽斗ノ場合)



正面圖



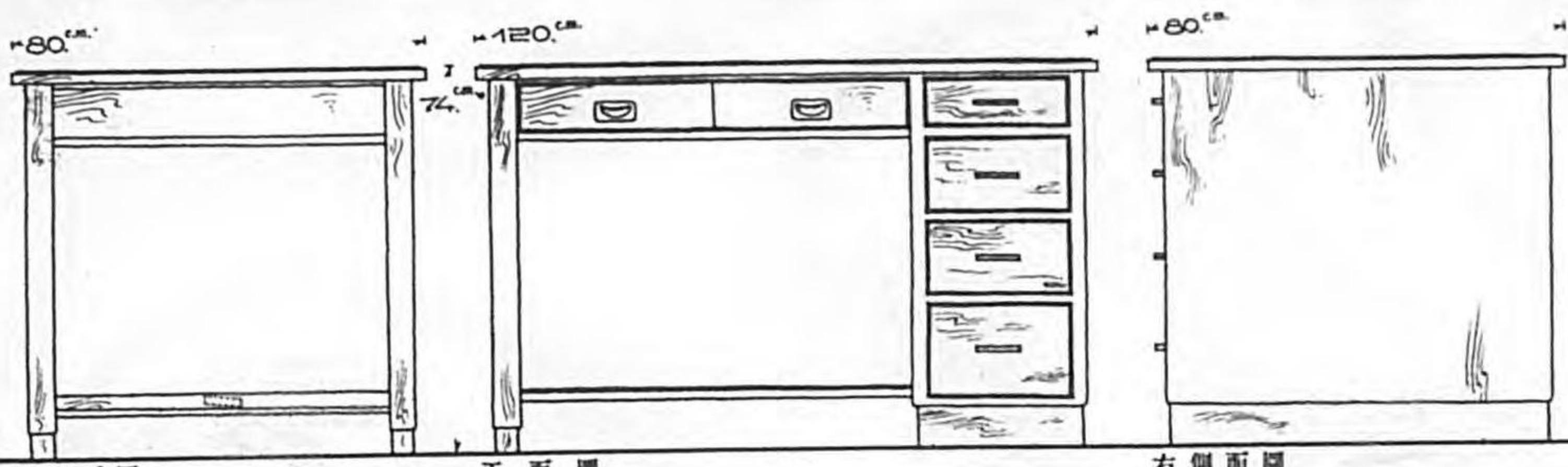
側面圖





事務用机脇卓子正面

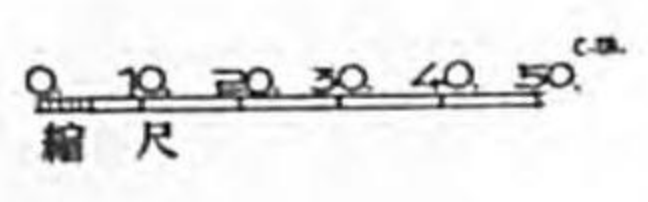
事務用机 背面



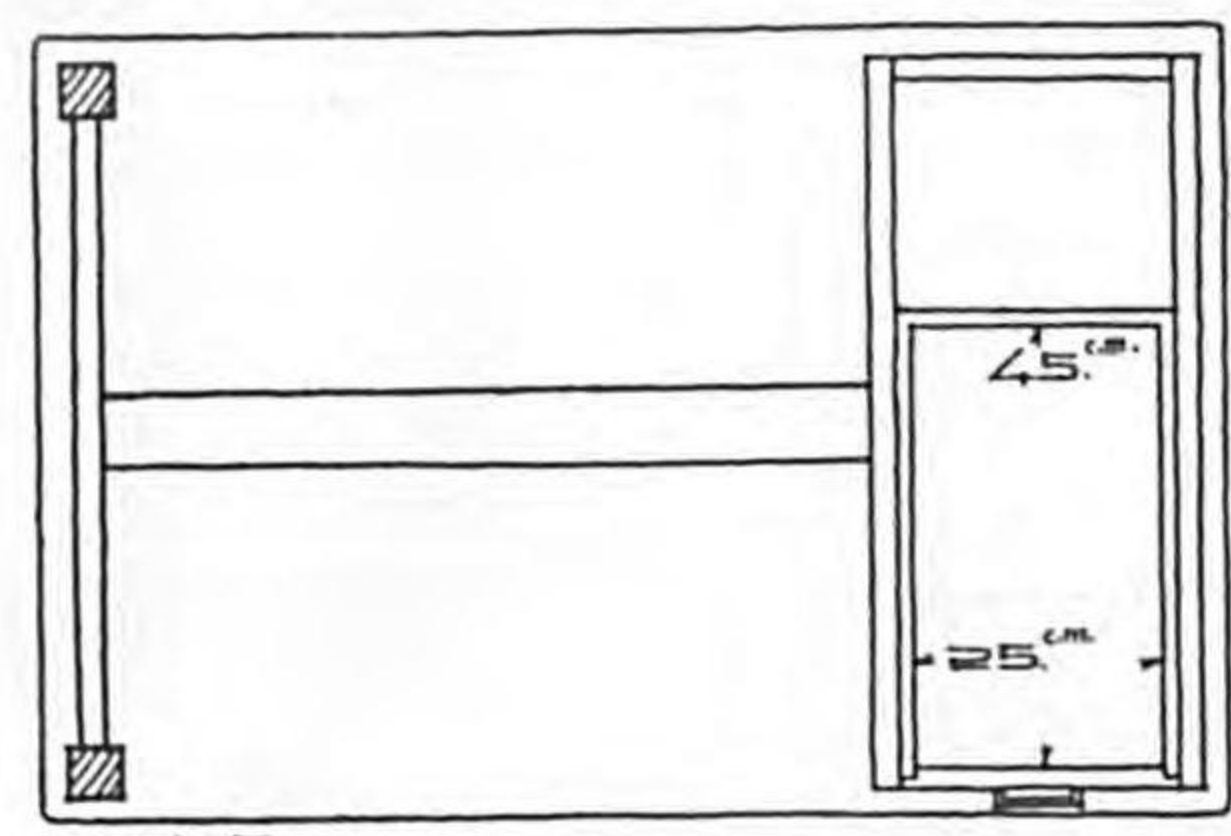
左側面圖

正面圖

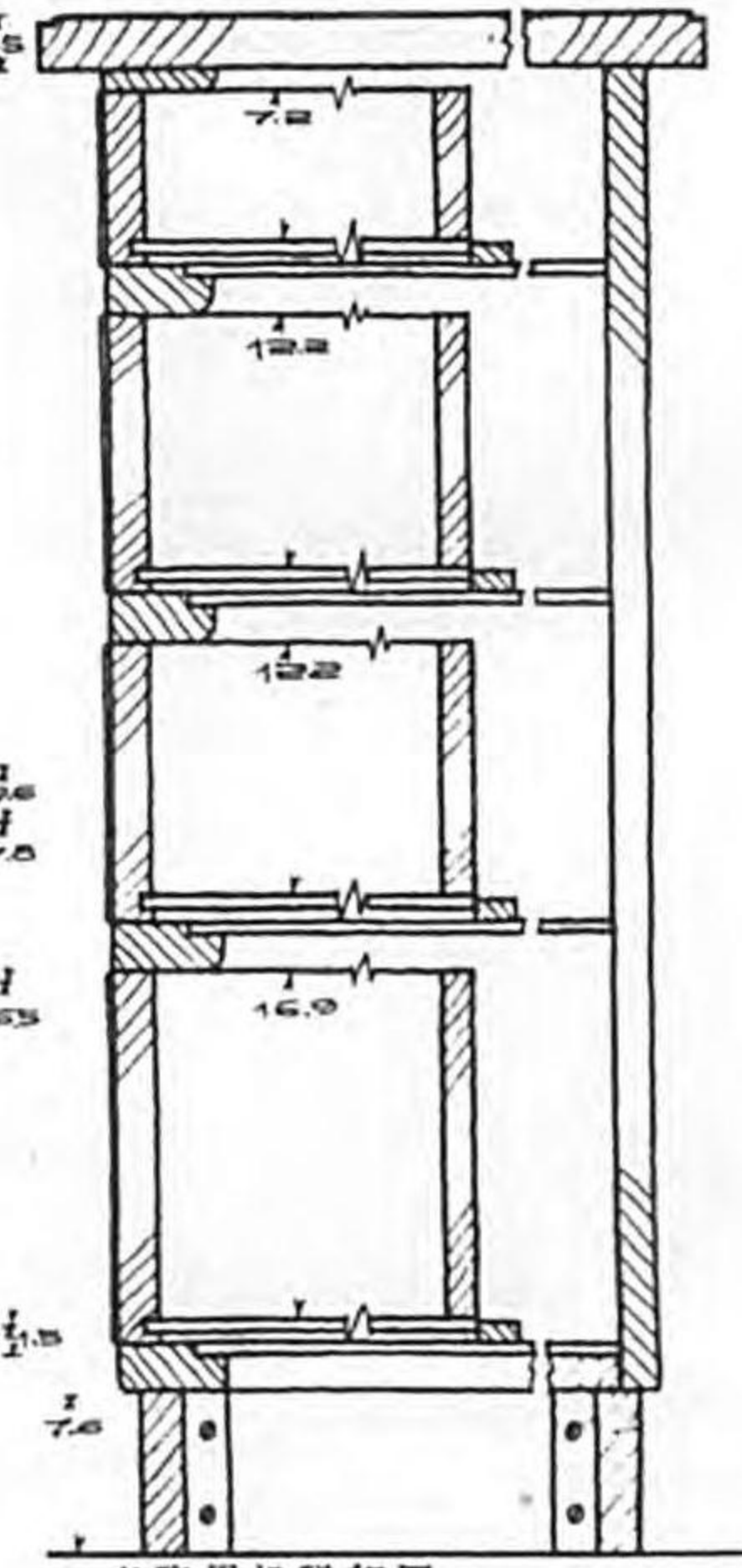
右側面圖



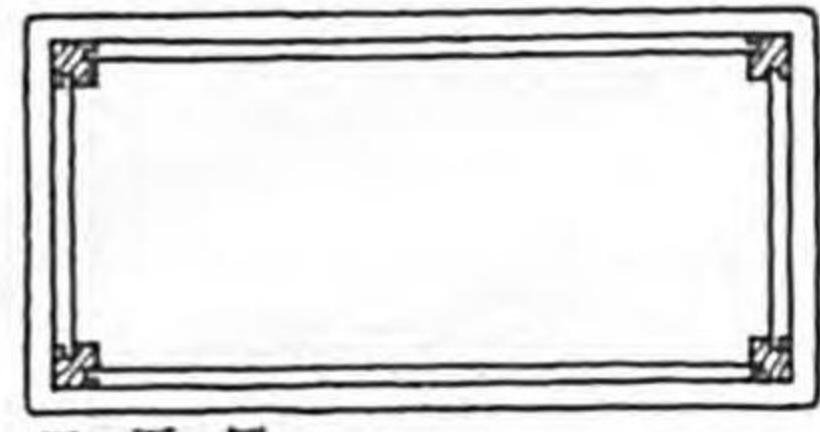
縮尺



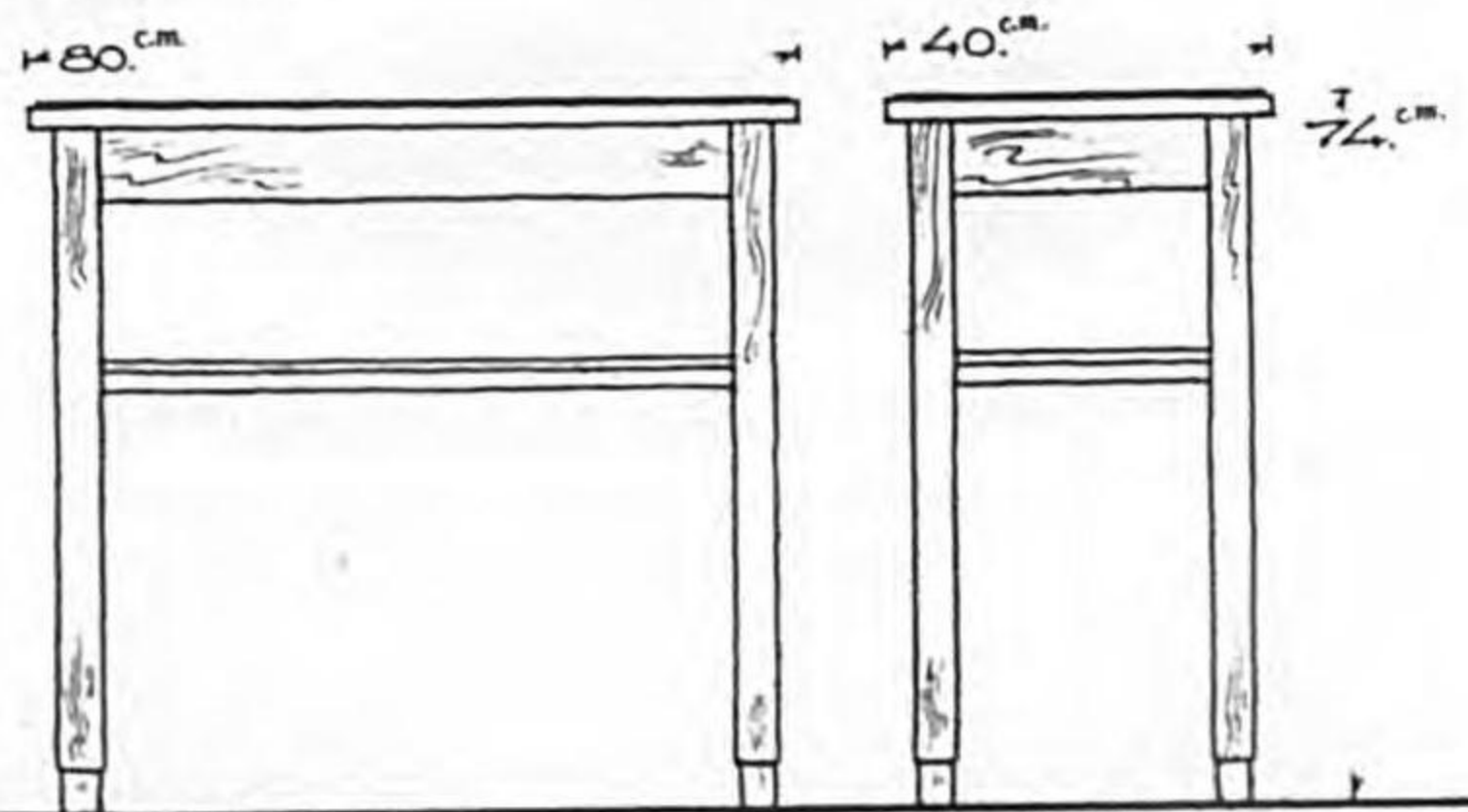
平面圖



事務用机詳細圖

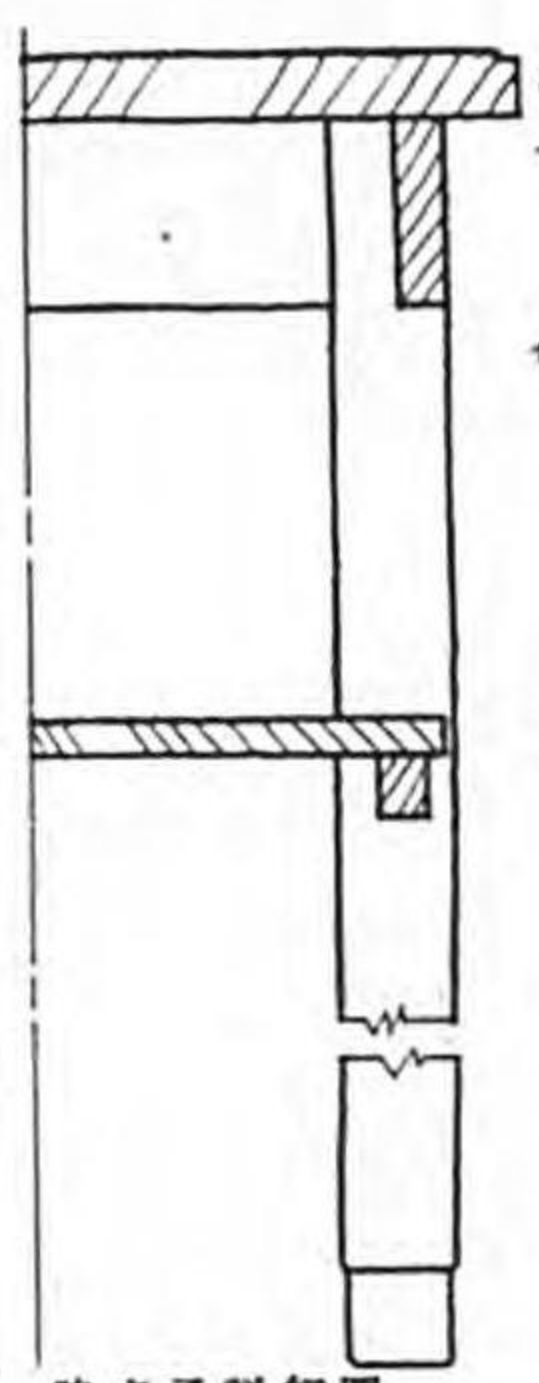


平面圖



側面圖

正面圖



脇卓子詳細圖



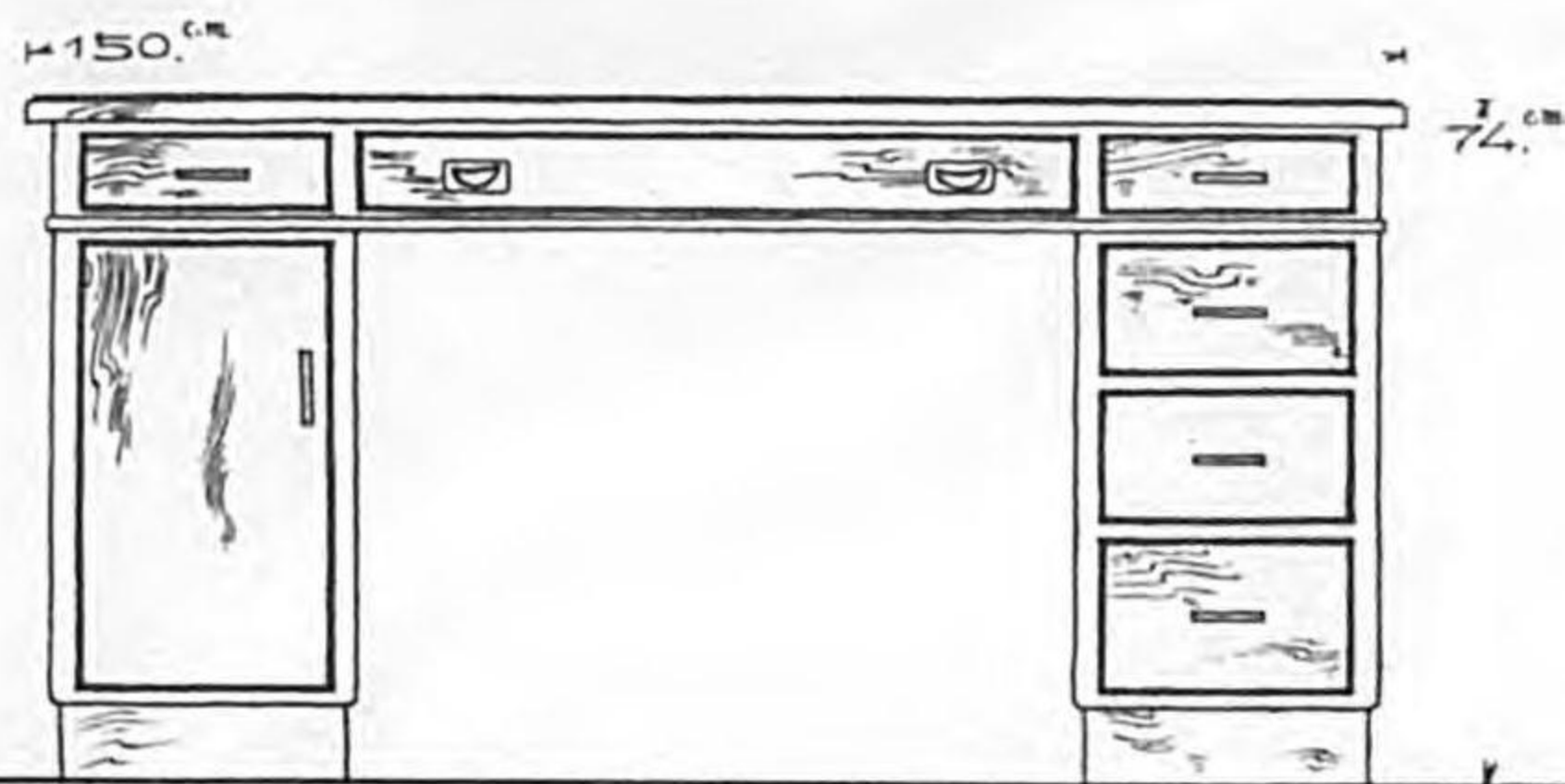
詳細圖縮尺





事務用机脇卓子正面

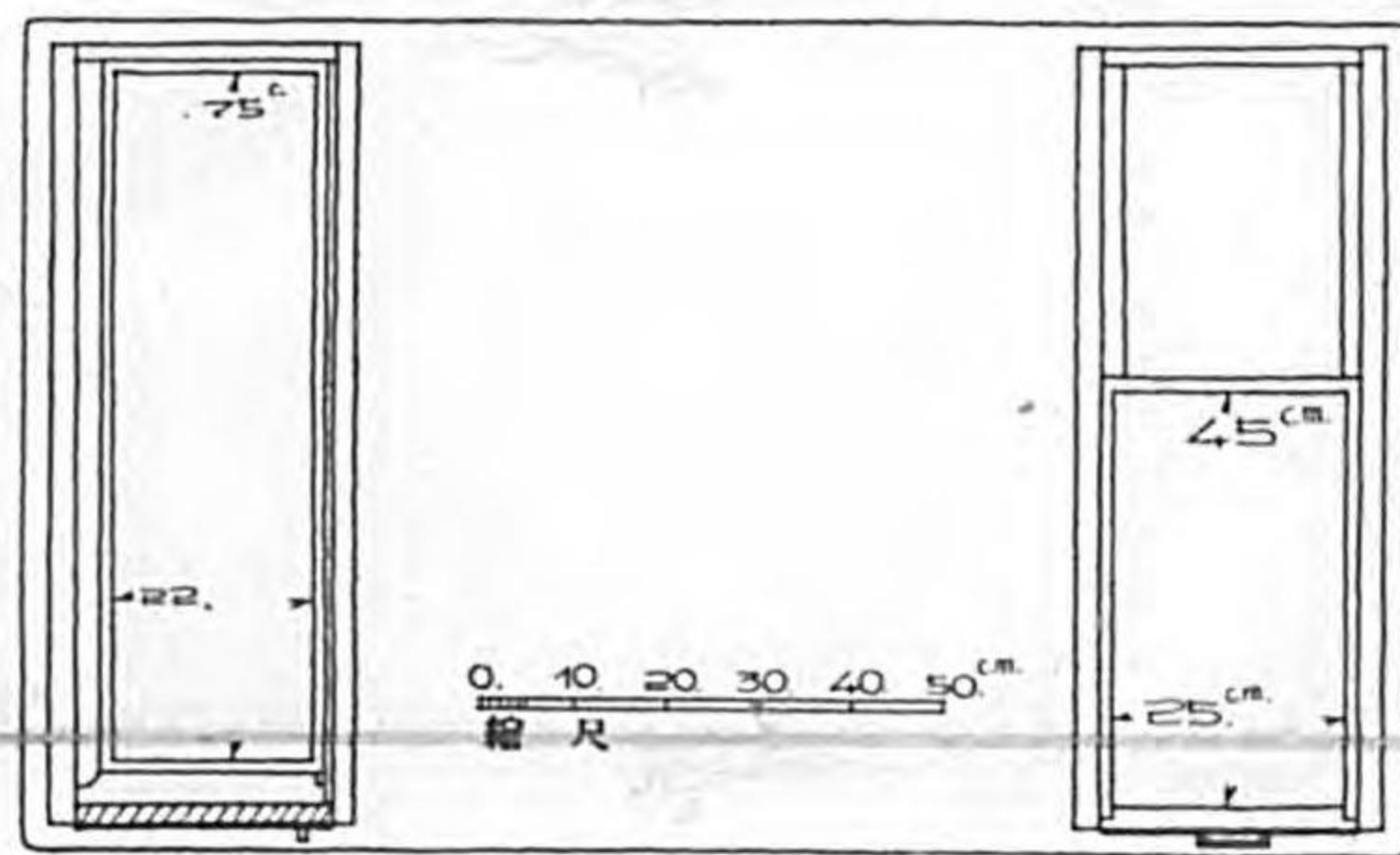
事務用机 侧面



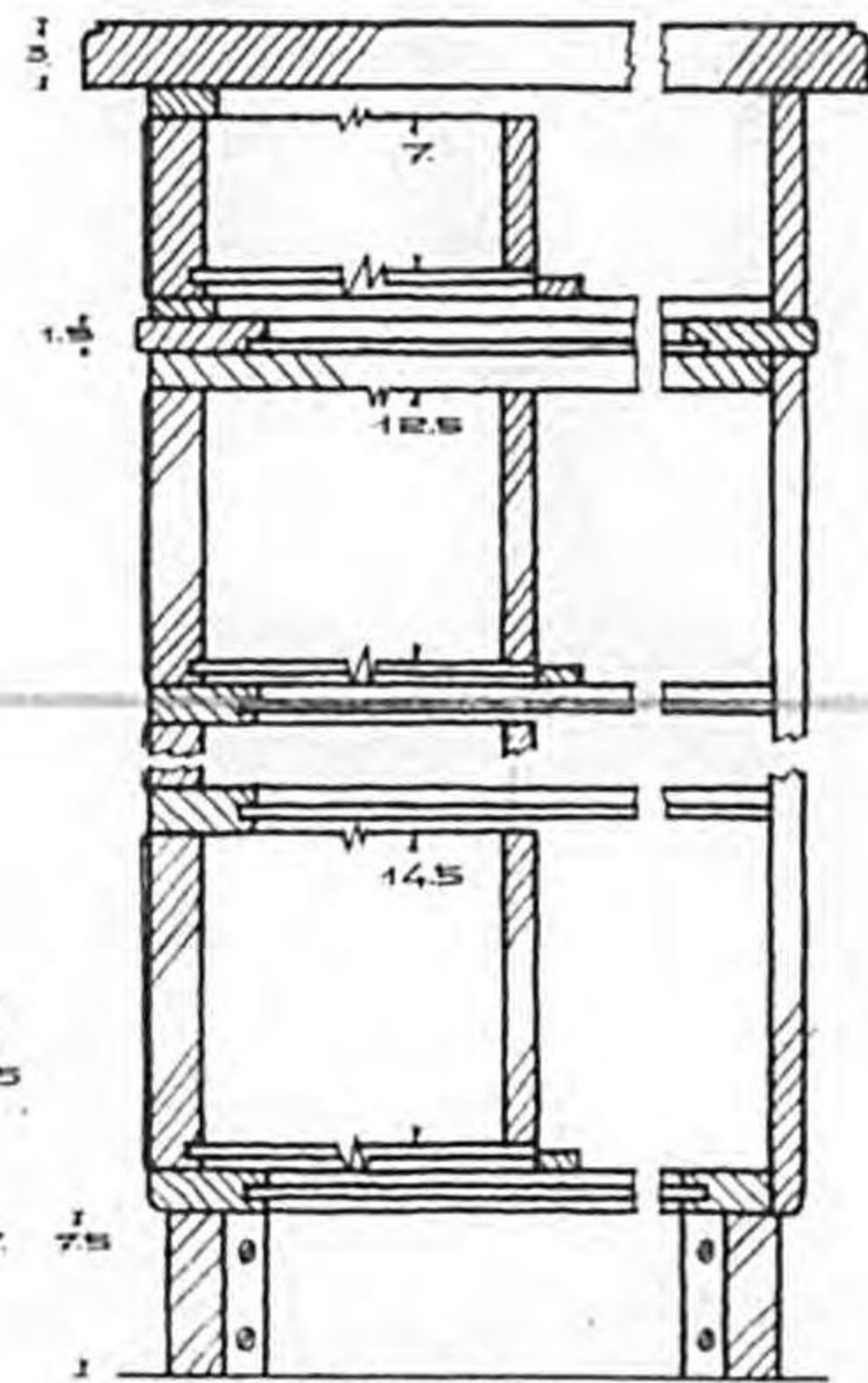
正面圖



側面圖

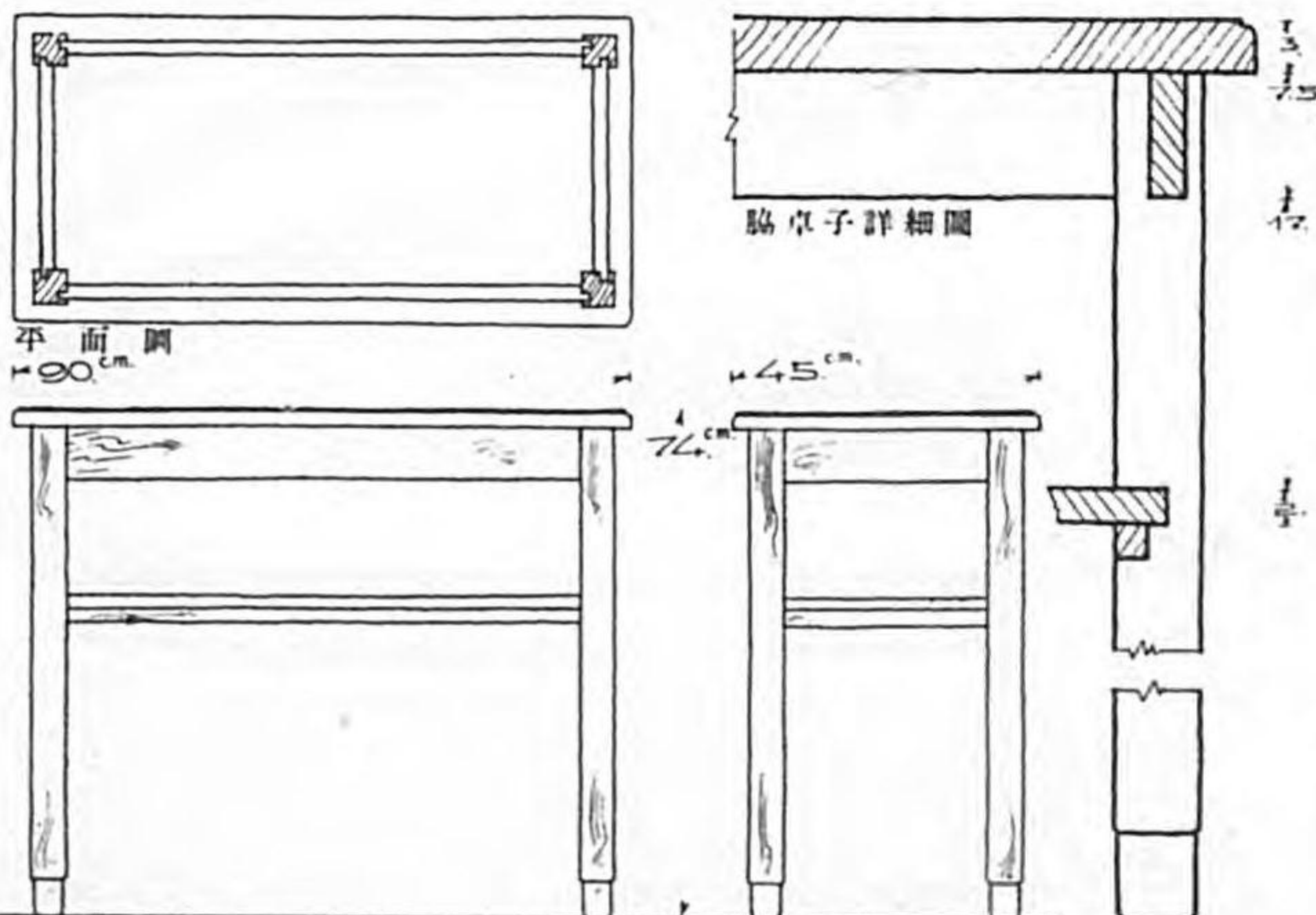


平面圖



事務用机詳細圖

詳細圖縮尺

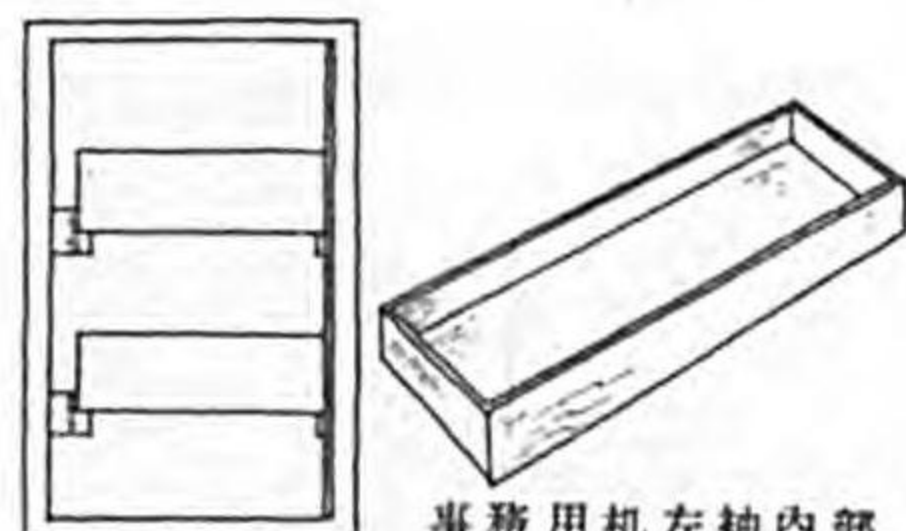


平面圖

脇卓子詳細圖

側面圖

正面圖



事務用机左抽内部



昭和九年十一月十五日決定

臨時産業合理局事務用卓子及椅子單純化委員會

# 日本事務用卓子及椅子單純化規格

## 第 I 卓子

單位 cm (センチメートル)

種類	形式	寸法					
		間口	奥行	高さ	袖引出口 (内法)	袖引出 (内法)	
事務用机	1 號	兩袖 <small>(兩袖トモ四本引出片袖開キ屏、中央引出、吹抜キ、三ツ組ノモノ)</small>	150	90	74	25	45
	2 號	片袖四本引出、中央引出 (二本)	120	80	74	25	45
	3 號	袖無し、中央引出 (二本)	105	75	74		
	4 號	袖無し、中央引出、棚附	90	60	74		
脇卓子	1 號	棚一枚附、四ツ足式	45	90	74		
	2 號	同上	40	80	74		
	3 號	同上 (全部引出又ハ開キ屏附トスルモ可ナリ)	40	75	74		
會卓 議用子	1 號	無引出、長方形	200	100	74		
	2 號	同上	150	75	74		
食卓 堂用子		長方形	180	120	74		
應卓 接用子	1 號	正方形	75	75	74		
	2 號	圓形	直徑 100		74		

## 第 II 椅子

種類	形式	寸法					
		シート迄ノ高さ	間口 (内法)	奥行 (内法)	肘ノ高さ (シートヨリ)	背ノ高さ	
事務用椅子	1 號	肘掛椅子	44	50	45	26	95
		廻轉肘掛椅子	最低 40	48	45	26	最低 85
	2 號	肘掛椅子	44	48	45	26	90
		廻轉肘掛椅子	最低 40	46	45	26	最低 80
		小椅子	44	44	40		90
	3 號	小椅子	44	42	40		80
		廻轉小椅子	最低 40	40	40		最低 75
	4 號	小椅子	44	40	40		80
會椅 議用子	小椅子	44	44	40		90	
食椅 堂用子	1 號	小椅子	44	44	40	90	
	2 號	小椅子	44	42	40	80	
應椅 接用子	小椅子	44	44	40		90	

昭和十年一月二十六日印刷  
昭和十年一月三十日發行

商工省臨時産業合理局

印刷所 東京市京橋區地三丁目十番地  
株式會社東京製版印刷所



## 備 考

1. 本表ハ官廳其ノ他ニ於テ用フル卓子及椅子ニ適用ス。但シ用途ニ依リ特種ノモノヲ必要トスルトキハ此ノ限ニ在ラズ。
2. 事務用机 4 號ハ主トシテ給仕ノ使用ニ供スルモノトス。
3. 本表ニ據ル説明圖（附録 I）ハ種類、形式、寸法ノミヲ示スモノニシテ、局部的意匠ノ詳細ヲ示スモノニ非ズ。
4. 製作綱領ニ付テハ附録 II ヲ参照セラレタシ。
5. 金屬材料ヲ用フル場合ニ於テモ本表ヲ適用スルモノトス。
6. 椅子ノ寸法中シート迄ノ高サハ床ヨリ椅子ノ土手詰メ上端迄ノ寸法トス。
7. 椅子ノ寸法中奥行（内法）ハ背板（若ハ背張）ノ中心下端内側ヨリ正面迄ノ寸法トス。



保存期限

三年

決裁指定

局長

決行指定

局長

政務次官  
回付

決裁前後  
連帶  
課名

交甲

決行(決裁)後  
回覽課名

受領  
番號

陸軍第二十六五號

起元廳(課)名

商工省

件名

日本標準規格告示ニ關スル件

大臣  
委

政務  
次官

次官  
委

參與官

書記官

審案  
筆記者

主務  
局長

主務  
課長

主務課員

主務副官  
官房御用掛

委員

主務局  
號番

器之第一八九號

受領

昭和十年八月十日

提出

昭和陸軍第七百廿一日

受領

昭和七年七月十二日

大臣官房

昭和七年七月十六日

連帶

局長

課長

決行(決裁)後  
回覽

局長

課長

三三

四



陸普

田答

大正ヨリ商工大臣所田忠形へ  
昭和十年四月九日附合規第289天部照  
會ニ係ル鐵鑛石鐵分析方注外四件、標準  
規格告示ニ關シテハ異存無之候

陸普第四〇二三號 昭和十年七月十三日



*[Faint, illegible handwritten text in the background, possibly bleed-through from the reverse side of the page.]*





陸軍省 令 第一二五號

昭和十年七月十日 午前六時

商工省

一〇合理第二八九六號

昭和十年七月九日

商工大臣 町田忠治

陸軍大臣 林 銑十郎 殿

左記五件ノ標準規格ニ付工業品規格統一調査會ノ答申ニ基キ別案ノ通告示致度候條御意見至急御回示相煩度此段及照會候也

記

- 一 鉄鑽石鉄分析方法
- 二 鉄鑽石化合物水分析方法
- 三 鉄鑽石珪酸分析方法
- 四 鉄鑽石マンガン分析方法

Handwritten notes and stamps, including a date '7/11' and a signature.



陸軍省 10.7.10 器材課



五鉄鑛石鑛分析方法

商  
工  
省



第一、臨時祭委員以下任命

三月廿八日陸軍ニ在リテハ步兵大佐牛島滿以下十一名、海軍ニ在リテハ海軍

大臣 牛島 高島 永久甲 陸軍省兵器局器材課

政務次官 回付 決裁前後連帶 課名

永久甲

決行(決裁)後 回覽課名

受領 番號 軍省 貳第 一三〇八

起元應(課)名

陸軍省兵器局器材課

保存期限 十年 決裁指定

執行指定 牛島 高島

件名 日本標準規格配賦、件

大臣 委

次官 委

高級 副官 牛島

主務副官 官房御用掛 牛島

政務 次官

參與官

書記官

審案 筆記者

主務 局長

主務 課長

主務課員

號番 器貳第 一三〇八 號

主務局 領受 昭和 年 月 日 提出 昭和 年 月 日 昭和本省 官

大臣官房 領受 昭和 年 月 日 了結 昭和 年 月 日

連帶 局長

決行(決裁)後 回覽 局長

長課

局長

長課

長課



陸普

通牒

官房より別紙箇所へ

昭和九年七月十九日及同年十月廿七日附商工省告示  
ヲ以テ發表セラルタル日本標準規格左記三件  
別紙ノ通 部送付ス

逕テ貴司(部廠師團軍所校)内配賦已介ハ昭和  
八年十月九日陸普第百三十九號通牒ノ通トス

左

記

陸普第三三七八號

昭和十年六月十四日

第一八四號電球用S22口金及承口

昭和九・一・九 告示第四一號

第一八七號高壓枝燭子

同

告示第四二號

第一八二號新巻ホネ及軸流ポンプ試験方法 昭和九・五・三 告示第六八號

大田田謙憲以下八名ニ關シテ國庫部發給委員ヲ命ズラシ又同委員權限トシテ海軍

三月廿八日國庫ニ送リテハ海軍大田田半島謙以下十一名、海軍ニ送リテハ海軍

第一八四號發給委員以下八名















陸普

回答

陸軍省ヨリ工業品規格統一調査令ハ  
昭和十年六月十四日一〇五規第天一號 經會ニ  
係ル首題ノ件ニ關シテハ意見見無キニ付承  
知相成度

陸普第四一一七號 昭和十年七月十八日

陸軍省ヨリ工業品規格統一調査令ハ  
昭和十年六月十四日一〇五規第天一號 經會ニ  
係ル首題ノ件ニ關シテハ意見見無キニ付承  
知相成度

4 寫眞撮影ニ關スル事項

5 一般ノ取締、車馬ノ整理、憲兵及警察官ニ關スル事項



陸軍省 第一八九三號

陸軍省 第一八九三號

一〇工規第六一號

昭和十年六月十四日



工業品規格統一調查會 第一部長

陸軍省

御中

工業品規格統一調查會第一部第六委員會ニ於テ鉄及鋼ノ記号規格ノ改正ニ関シ審議中ノ処今般別紙ノ通決定致度該規格確定ノ上ハ官民ヲ通シテ其ノ実行普及ヲ期セラルヘキモノニ有之候ニ付テハ右ニ関スル御意見承知致度候条来七月十日迄ニ商工省臨時産業合理局内本調査會宛御回示相煩度此段及照會候也

別紙  
7月16日  
陸軍省  
器材課









陸普

田峯

陸軍省ヨリ工業品規格統一調査會ハ  
 昭和十年五月二十七日ヨリ工規第五四號規格統一調査會ニ係ル  
 規格案ニ關スル意見見別紙ノ通回答候也  
 尚凡該試驗片及凡折試驗片ニ關シテハ意見見  
 無之候

陸普第四一八四號 昭和十年七月廿二日

Handwritten notes in vertical columns, including dates like '昭和十年七月廿二日' and other illegible characters.

社官司ニ通達ス

合祀セラレタル人員ハ今回ノ事變關係者陸軍七六三、海軍二〇、外務省警察  
 官二、朝鮮總督府警察官五、關東廳警察官一、南滿洲鐵道株式會社社員二二



祀通知並ニ參拜案内狀ハ三月三十日迄ニ發送セリ  
日合祀仰出サレ即日發送ス

別紙

左房控

陸軍

衝撃手試験

(一) アイソソト式試験機ヲ用ウル場合

試験片ノ一端トアルヲ一方トスルヲ通者ス

理由、試験ニ際シ試験片ハ一端ヲ固定スルモノニ非

ス全長ノ約2/3ヲ摺リ固定スルヲ以テ一端ナル

字ハ不適者ト考ノフ

硬度

(一) ロックウェル硬度

試験片ノ試験面ヲ頂角120°ノ円錐体トアルヲ

材料試験片ノ試験面ヲ頂角120°ノ円錐体トアルヲ

体トスルヲ可トスルニテ其ノ間ニ異ナリト

尚本項ノ未定130、150ノ誤用ヲ

硬度測定ニ用ガリタルニ被度計ヲ使用シテ明記ス

ルニ被度計ノ誤用ニ由リテ生ズル誤差ニ注意スルニ







器材

陸軍省 第一〇工規第五四号

昭和十年五月二十七日



工業品規格統一調査會 第一部長

陸軍省

御中



工業品規格統一調査會第一部長第三委員會ニ於テ目下金屬材料抗張試驗片(第六号、第七号、第八号)金屬材料抗折試驗片及金屬材料ノ機械的試驗ニ關スル術語ノ意義ニ關シ審議中ニ有之候処今般別紙ヲ進決定致度右確定ノ上ハ官民ヲ進シテ其ノ実行普及ヲ期セラレヘキモノニ有之候ニ就テハ右ニ關スル御意見承知致度候案来六月末日迄ニ商工省臨時産業合理局内本調査會宛御回示相煩度此段及照會候也

別紙  
7月18日  
器材課













器材

陸軍部 第三二二二號

一〇合理第三一六五號

昭和十年七月二十三日

陸軍大臣 林 銑 十 郎 殿

商工大臣 町 田 忠 治

左記二件ノ標準規格ニ付工業品規格統一調査會ノ答申ニ基キ別案ノ  
通告示致度候條御意見至急御回示相煩度此段及照會候也

記

一 塗料用油類

二 塗料用油類試驗方法



紙添附

商工



別紙  
2月29日  
器具部







陸普

回答

大臣ヨリ商工大臣へ

昭和十年八月七日附合  
理第三〇七〇號  
第三〇七一號及第三〇七  
一號ヲ以テ照會  
セラレタル日本標準規格  
告示ニ關スル件  
異存無之候

陸普第四五一〇號

昭和十年八月十二日

日本標準規格告示ニ關スル件  
陸普第四五一〇號  
昭和十年八月十二日

一名ニシテ何レモ内外科ノ中輕症患者ナリシヲ以テ手當後退所セリ

右ノ外參拜遺族左記二名ハ各頭書ノ病氣ニ罹リ入院治療ヲ要スルニ付委員ヨリ日本赤十字社病院ニ依頼シ治療ヲ受ケシム（病院ノ厚意ニ依リ特ニ入院





器材

陸軍省 領 壹第二四五六號

一〇合理第三〇七〇號

昭和十年八月七日

商工大臣 町田忠治

陸軍大臣 林 銑十郎 殿

昭和五年商工省告示第二十五號ヲ以テ公布致候水道用鑄鐵管規格ノ改正並左記二件ノ標準規格ニ付工業品規格統一調査會ノ答申ニ基キ別案ノ通告示致度候條御意見至急御回示相煩度此段及照會候也

記

- 一 水道用亜鉛めつき鋼管
- 二 水道用高級鑄鐵管



(別紙添附)

商工省



別紙  
8月7日  
町田忠治



器材

陸軍省 領 壹第三〇五七號



商工省

一〇合理第三四七一號

昭和十年八月七日

商工大臣 町田 忠 治

陸軍大臣 林 銑 十 郎 殿



左記四件ノ標準規格ニ付工業品規格統一調査會ノ答申ニ基キ別案ノ  
通告示致度候條御意見至急御回示相煩度此段及照會候也

記

- 一 ノートルねち第一號ノ寸法差及公差
- 二 ウイツトウオースねち第一號ノ寸法差及公差
- 三 ノートルねち第一號ノピッチノ寸法差及山ノ角度差
- 四 ウイツトウオースねち第一號ノピッチノ寸法差及山ノ角度差





器材

陸軍省 受領 第一〇五八號



(別紙添附)

商

一〇合理第三〇七一號

昭和十年八月七日

商工大臣 町田 忠治



陸軍大臣 林 銑 十郎 殿

左記二件ノ標準規格ニ付工業品規格統一調査會ノ答申ニ基キ別案ノ通告示致度候條御意見至急御回示相煩度此段及照會候也

記

一、金属材料衝擊試驗片

二、器具類



別紙添付  
昭和十年八月七日  
器材課



料ヲ免除セラル

長野縣南安曇郡梓村大字梓九三〇番地

川村一夫

永久甲

政務次官 回付 決裁前後連帶  
參與官 課名

決行(決裁)後  
回覽 課名

保存期限

永久

決裁指定

局長

決行指定

牛島

受領番號

壹第 二五〇六號

起元應(課)名

商工省

件名

日本標準規格告示ニ関スル件

大臣委

政務次官

次官

主務局長

參與官

高級副官

主務課長

書記官

主務副官  
官房御用掛

主務課員

審案  
筆記者

大臣大臣	主務局長	局長	課長
受領番號	受領	提出	了結
昭和十年八月十五日	昭和十年八月十五日	昭和十年八月十五日	昭和十年八月十五日

連帶

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

301

311



同答

大臣ヨリ商工大臣田忠治へ

昭和十年八月十三日附一〇合理第三四七〇號ヲ以テ照會セラレタル小型三相誘導可電動機規格中改正並饋電線用ピン端子規格、告示ニ関シテハ異存無之候

陸省第四六六號 昭和十年八月廿日



日本製鋼所 昭和十年八月廿日 田忠治

姑妻 土善 川 林 一 夫 組

尋理 瀬南 安 龜 瀬 林 大 宇 幹 氏 三〇 番 組

併カ 張 綱 々 (ニム)





陸軍省 第一五〇六號

一〇合理第三四七〇號

昭和十年八月十三日

商工大臣 町田忠治

陸軍大臣 林銑十郎 殿

昭和四年商工省告示第二十五號ヲ以テ公布致候小型三相誘導電動機規格中改正並饋電線用ピン碍子ノ標準規格ニ付工業品規格統一調査會ノ答申ニ基キ別案ノ通告示致度候條御意見至急御回示相煩度此段及照會候也



添附

商工省



別紙  
8月16日  
商工省  
林



保存期限  
決裁指定  
局長委任  
執行指定

大臣 林 銑	局長 主務	次官	政務 次官	參與官	書記官	主務副官 官房御用掛	主務課員
局長	高級 副官	主務 課長	局長	局長	局長	局長	局長
局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長

件名  
工業研究情況調査ニ關スル件  
壹第一九五〇號  
資源

政務次官  
回付  
決裁  
後  
課  
統制  
兵務  
防備  
銃砲  
器材  
醫藥  
衣糧  
起元廳(課)名  
決行(決裁)後  
課名

永命  
陸軍省  
10.7.2  
陸軍省

陸軍省  
0.7.5  
陸軍省

陸軍省  
0.6.28  
防備課

陸軍省  
0.6.28  
兵務課

陸軍省  
10.6.28  
馬政課

陸軍省  
10.7.1  
衣糧課

陸軍省  
10.7.1  
銃砲課

陸軍省  
10.6.29  
第210號  
銃砲課



(陸 普)

副官ヨリ 造兵廠長官、航空本部長、

✓ 科學研究所長、千住製絨所長、被服本廠

長、糧秣本廠長、衛生材料廠長、

自動車學校長、通信學校長、~~通機案~~

資源局ニ於テ工業研究輯覽第三號編纂案及

總動員計畫設定上ノ資料ヲ得ル為別紙

様式ニ依リ工業研究ノ情況調査方照會アリ

タルヲ以テ本省ニ於テ取纏メ回答致度ニ付

貴(廠)(部)(所)(校)該當事項中公表差支

ナキ事項調査ノ上來ル七月末日迄ニ回答相

煩度照會

追テ右輯覽ハ昭和七年第一號ヲ編纂案ニ

爾后同局ニ於テ編纂案スルニ試驗研究項目





要覽ト隔年ニ配布シ来リタルモノニ付申添ス

陸軍

陸普第三八六三號

昭和十年七月六日





様式第一號

機關名			
進度	研究項目	内容概説	担当者名
完了	1. -----	1. -----	1. -----
	2. -----	2. -----	2. -----
研究中			
未着手			

記載注意

- 内容概説 各研究項目毎ニ其ノ目的、方法等ヲ簡單ニ記スルコト
- 完了 トハ昭和九年四月ヨリ昭和十年三月迄ニ完了シタルモノ
- 研究中 トハ現ニ研究中ノモノ
- 未着手 トハ昭和十年四月ヨリ昭和十一年三月迄ニ研究着手確實ナルモノヲ謂フ
- 研究項目中特ニ重要ナルモノハ其ノ旨ヲ併記スルコト
- 既定標準用語 (化學関係、機械関係)ニヨリ記載セラルタシ

陸軍省 昭和十一年七月六日



様式第二號

機 関 名												
所 在 地												
代表者氏名												
研究部門												
設 備												
研究員		機 械	電 氣	化 學	採 鉱	金 冶	土 建	木 築	物 理	紡 績	其 他	計
	技師及之=準 ル者ノ数											
	技手及之=準 ルモノノ数											
	計											
経 費	人 件 費		事 業 費			設 備 費		営 繕 費		計		
	俸 給	僱 人 費										

記載注意

1. 設備欄 = ハ昭和九年昭會，試験研究=関スル調査以後  
= 於テ変動アリタルモノ=付記載ノコト
2. 経費 ハ最近一ケ年ノ會計又ハ事業年度ノ決算額ヲ  
記入スルコト





動員

印

陸軍省  
領  
第一九五〇號

資源局發第二一四號

昭和十年六月十九日

陸軍省  
昭和十年六月二十一日  
前午  
大臣  
印

資源局長官 川久保修吉

陸軍次官 殿

工業研究情況調査ニ關スル件

工業研究輯覽第三號ノ編纂及總動員計畫設定上ノ資料ヲ得度候ニ付本年四月一日現在ニ於ケル左記研究機關ノ工業研究情況ヲ別紙様式第一號及第二號ニ依リ御調査ノ上八月二十日迄ニ御回報相煩シ度此段照會仕候追テ左記以外ノ研究機關ニシテ調査ヲ要スベキモノ之有リ候ハバ併セテ御調査相煩シ度申添ヘ候

記

一 調査スベキ工業研究機關名



省  
10.6.21  
第14種  
動員課



Vertical text on the right side, likely a title or address.

Vertical text on the right side, likely a title or address.

Main body of vertical text, possibly a letter or document content.

Horizontal text in the center, possibly a title or name.

Vertical text on the left side, likely a title or address.

Vertical text on the left side, likely a title or address.

Vertical text on the left side, likely a title or address.





機關名

所在地

陸軍造兵廠火工廠

東京市王子區下十條町

同 名古屋工廠

名古屋市南區

同 大阪工廠

大阪市東區

同 小倉工廠

小倉市

同 平壤兵器製造所

平壤府

陸軍航空本部技術部

東京府北多摩郡立川町

陸軍科學研究所

東京市淀橋區百人町四丁目

千住製絨所

東京市荒川區南千住町

陸軍被服本廠

東京市王子區赤羽町

陸軍糧秣本廠

東京市深川區越中島

陸軍自動車學校

東京市世田ヶ谷區世田ヶ谷四丁目

衛生材料廠  
通信部長

衛生材料  
通信部長



様式第二號

名 關 名												
所 在 地												
代 表 者 氏 名												
研 究 部 門												
設 備												
研 究 員		機 械	電 氣	化 学	採 冶	金 属	土 木	建 築	物 理	紡 織	其 他	計
	技 師 及 之 = 率 % ル 者 / 数											
	技 手 及 之 = 率 % ル 者 / 数											
	計											
經 費	人 件 費	事 業 費		設 備 費		管 繕 費		計				
	俸 給 備 人 費											

記載注意

1. 設備欄 = 昭和七年照會、試験研究ニ関スル調査以後ニ於テ變動アリタルモノニ付記載ノコト
2. 經費 = 最近一ケ年ノ會計又ハ事業年度ノ決算額ヲ記入スルコト



様式第一號

機 関 名				
進 度	研 究 項 目	内 容 概 説	担 當 者 名	發 表 誌 名
完 了	1. ---	1. ---	1. ---	1. ---
	2. ---	2. ---	2. ---	2. ---
研 究 中				
未 着 手				

記載注意

1. 内容概説 各研究項目毎 = 其、目的、方法等、簡算 = 記スコト
2. 完了 トハ昭和九年四月ヨリ昭和十年三月迄 = 完了シタルモノ
- 研究中 トハ現 = 研究中、モノ
- 未着手 トハ昭和十年四月ヨリ昭和十一年三月迄 = 研究着手確實ナルモノヲ謂フ
3. 研究項目中 特 = 秘密ヲ要スルモノ = 付テハ其、旨、付記スルコト
4. 既定標準用語 (化学関係、機械関係) = ヨリ記載セラレタシ







(陸普)

次官ヨリ資源局長官へ回答案

六月十九日附資源局發案二一四號ヲ以テ照會  
ノ資料別紙ノ通回答ス

陸普第四八二二號

昭和十年八月卅一日

別紙	陸
八當課三係管天	印
九月二日	動員課



陸軍省 第一九五〇番其一

陸軍

通校第八二二號

工業研究輯覽編纂資料送付ノ件通牒

昭和拾年七月拾五日

陸軍通信學校長中島完一

陸軍省副官 牛島 滿 殿

六月六日陸普第三八六三號ニ依ル首題資料別紙ノ通送付ス





様式第一號

本表(様式第一号)ニ記載スヘキ事項ハ全部秘密ニ屬ス  
ルヲ以テ公表シ得ス





様式第一號

本表(様式第一号)ニ記載スヘキ事項ハ全部秘密ニ屬ス  
ルヲ以テ公表シ得ス



動員

印

陸軍省 第一九五〇

航秘第 五九三號

工業研究情況調査ニ關スル件回答

昭和十年七月二十二日

陸軍航空本部

陸軍省 御中

六月六日陸普第三八六三號照會首題ノ件該當事項無シ

昭和十年七月二十二日 午前 陸軍省

陸

陸軍航空本部 印

木

陸軍省 第一九五〇 第一〇七四



陸軍省第一九五〇番共三

昭和十年七月廿五日  
陸軍省  
10.7.25  
午前  
大臣官

陸

軍

軍

衛廠甲第一一號

工業研究情況調査ニ關スル件回答

昭和十年七月廿四日

陸軍衛生材料廠長 田口文太

陸軍省副官 牛島滿殿

六月六日陸普第三八六三號通牒ニ係ル首題ノ件別紙ノ通承知セラレ度







機関名		陸軍衛材科廠		
進度	研究項目	内容概説	担当者名	発表誌名
研    先  中	1. 簡易ナル注射針用双 具ノ考案研究	1. 注射針ノ針尖ヲ鉄列ナリシルニ 際シ其ノ尖端ヲ透徹ニ把持スル 機ニ同一方式ニテ用双ノ得ヘキ用 具ヲ考案スルモノトス	1. 陸軍一等藥劑正 清水貴次 陸軍一等藥劑官 川原匡足	
	2. 酸素蘇生器ノ考案研究	2. 在來型ト其ノ方式ヲ異ニスルモノ ( 壓縮瓦斯ヲ用ヒサレモノ ) ノ考案	2. 陸軍一等藥劑官 柴野金吾	
	3. 移動式馬衡ノ研究	3. 容易ニ隨所ニ運搬シ得ル構造 ノ馬衡ヲ考案スルモノトス	3. 陸軍一等獸醫正 北原廣太郎	
	4. 一酸化炭素ノ定量法研究	4. 操簡易ニテ成績確實ナル 定量法ヲ研究セントス	4. 陸軍一等藥劑正 石福覺治 陸軍一等藥劑官 小林茂生	
	5. 野戰用消毒劑ノ研究	5. 第一線ノ使用ニ適ル簡易ニテ耐 強カク携帯用ノ指創傷消 毒劑ヲ得ントス	5. 陸軍一等藥劑正 萩原三郎 陸軍一等藥劑官 原大次郎	



第一冊

機関名 陸軍省材料廠				
進度	研究項目	内容概況	担当者名	発表誌名
研究中	6. 肝臓及胆類由味 = 関与影響研究	6 外科用及唇ヲ用及上ノ肝臓 ニル場合鋭利度変化状況 ヲ研究セントスルモノトス	陸軍三等藥劑正 奥田健児 陸軍一等藥劑官 伊東祐之助	



第二册

機 関 名	田口製紙廠
所 在 地	東京市世田谷区玉川用賀町二丁目
代 表 者 氏 名	田口文太
研 究 部 門	衛生材料及紙醫材料
設 備	

研 究 員	機 械		電 気	化 學	採 礦 冶 金	土 木 建 築	物 理	紡 績	其 他	計
	技 師 及 之 準 ズル 者 / 数	1								10
技 手 及 之 準 ズル 者 / 数			1							1
計	1		1						10	12

經 費	人 件 費		幸 業 費	設 備 費	營 繕 費	計
	俸 給	備 人 費				
	—	—	—	—	—	—



埼玉縣秩父郡野上村大字中野上五五番地二

見 福島長三郎

同

九三〇

滿洲病死

同

749

福島文太郎

陸軍省第一九五〇

四

緞第六五二

號



陸軍

工業研究情況調查

二回スル件回答

昭和十年七月三十日

千住製絨所長心得回答

陸軍省副官 牛島 滿 殿

本年六月六日付陸普第三八六三號ヲ以テ通牒  
ニ係ル首題ノ件ニ関シ別紙(様式第一番及第  
二番)ノ通函答ス





様式第一號

機関名、千住製絨所				
進度	研究項目	内容概説	担当者名	發表誌名
完了	1. 絨柔軟度試験器の研究	目的、絨柔軟度ヲ機械的ニ測定セントス。 方法、電磁石ヲ應用シテ絨布ヲ一定ノ方向ニ屈撓セシメ其抗屈性ニ依リ柔軟度ヲ測定ス。	齋藤繁喜	昭和九年特許公報ニ記載
研 究 中	1. 絹纖維ヲ軍絨ニ利用ノ研究	絹纖維ヲ軍絨ニ利用シ之カ代用原料トシテノ價値ヲ研究ス	藤本廣平 宮寺栄二 永山顯雄	
	2. 羊毛纖維ニ對スル化学的影響ノ研究	羊毛纖維ニ對スル、酸アルカリ、熱、其他操作ニ、影響ノ研究。絨作ノ損傷ヲ軽減シ製品質ノ向上ヲ図ラントス	小野宰平 荒木一夫	
	3. ラノリンノ抽出研究	羊毛脂ヨリ、ラノリン抽出法ヲ研究シ羊毛脂ノ用途ヲ擴大セントス。	月 上	
	4. 國產染料ノ利用研究	羊毛其他、纖維ニ從來使用シタル外國產染料ニ代替スルハキ國產染料ノ利用研究。	小野宰平	
	5. 滿蒙及支那羊毛ヲ軍絨ニ利用ノ研究	滿蒙及支那羊毛、原料ノ價值並具體的利用方法ノ研究。	藤本廣平 宮寺栄二	
	6. 國產表針帯ト外國產表針帯トノ比較研究	國產品及外國產品ノ性能及耐久性等ニ就キ比較研究ス。	加藤一平	



様式第二

機関名	千住製絨所					
所在地	東京市荒川區南千住町					
代表者氏名	岡本信三					
研究部門	紡織、染色化学及之ニ對スル機械等ノ研究					
設備	昭和九年因答後ニ於テ増備シタルモノ次ノ如シ。 絨柔軟度試験器 1					
研究員			機械	化学	紡織	計
	技師之ニ準ル者ノ数			1	1	2
	技手及之ニ準ル者ノ数		3	3	8	14
	計		3	4	9	16
經費	人件費		事業費	設備費	管理費	計
	俸給	備人費				
	12,422.60 <sup>円</sup>	5,787.23 <sup>円</sup>	3,411.14 <sup>円</sup>	1,225.76 <sup>円</sup>	284.46 <sup>円</sup>	23,131.19 <sup>円</sup>



陸軍省副官 牛島 滿殿

陸軍技術本部經由

陸科研甲第四二一號

本部經由可

工業研究情況調査ニ關スル件回答

昭和十年七月二十九日

陸軍科學研究所長 久村 種樹

陸軍省副官 牛島 滿殿

六月六日附陸普第三八六三號通牒ニ係ル首題ノ件別紙ノ通回答ス  
追テ様式第二號ハ祕密ヲ要スヘキ事項ニ付省略ス



陸

軍



陸 1950





# 陸軍科學研究所

説	擔當者名	発表誌名
般機械的	尾藤加勢士 石田四郎	科研報告第716號 鐵と鋼第21卷第5號
微粒(煙)體(研究)	山田櫻	
時/防護材 製法(研究)	<del>山田櫻</del>	
三行過煙化物 發化物及酸劑 本発煙劑(点 自若)灰黑色煙	秋野武	
	杉本正邦 寺門茂 茂木吉治	
研究	杉本正邦 茂木吉治	
加一般的性質	杉本正邦 茂木吉治	
究	杉本正邦 朝倉木吉 茂木吉治	
元)探究	篠田録	
法及應用法	篠田録	
法	入江為常	
應用=就テ	花岡安業	
也=就テ	吉田又彦	
材料)研究	新木壽藏	
用(以爲各用 性炭製造法研究	山田櫻	
製出)老化防止 研究	國澤新太郎	



機 關 名		
進 度	研 究 項 目	内 容 概
完	1. クロムコバルト鋼=関=研究	クロム、コバルト鋼=性質=研究
	2. 微粒子煙濾去材料研究	軍=通気=濾過=依=相 完全=濾去=得=繊維
	3. 特殊吸収剤研究	青酸=依=濾過=殺菌=作 材=ト=テ=吸=収=劑=性=水=質
	4. 發煙劑研究	芳香族炭水化合物=煙素=ハ 之=ニ=重=鉛=類=也=金=屬=ハ 普=通=合=成=法=で=製=成=す 火=劑=ヲ=以=テ=火=災=防=火=ス ラ=者=ニ=テ=モ=ス=ル=モ=ナリ
研	1. 銅ニマンガン合金=関=研究	白銅トノ比較研究
	2. マグネシウム合金研究	耐蝕性高抗張力合金
	3. 金属材料在湿熱中性質研究	鋼材=銅材=鋁材=鐵材=ニ 對=シ=テ=腐=蝕=性=質=を 調=査=ス
	4. 防楯用地金=関=研究	優秀防楯用地金=探
完	5. 塗料諸原料研究	軍用塗料トテ適當ナル
	6. 特殊塗料研究	防水等=特殊塗料=製
	7. 夜光劑研究	夜光劑、製造及應用
	8. 耐寒各種脂油研究	不凍性各種脂油=製法
中	9. 液体燃料研究	付屬燃料=液=炭=水=素=類=ハ 其=他=種=類=ニ=對=シ=テ 燃=焼=熱=効=率=が 高=い
	10. 寫真材料研究	軍用トテ適當ナル寫真
	11. 簡易火起理=依=活性炭製 法研究	市民簡易ナル防器具=但 人カ容易=災=患=ヲ=防=止=ス ル=爲=メ
亦着手	12. 軍用ニ用=材料研究	耐寒性ニ關=探=究=中 ニ=テ=モ=耐=久=保=存=格=納=法=ハ





陸軍省副官 牛島 滿 殿

陸軍省副官 牛島 滿 殿



陸軍

工業研究情況調査ニ關スル件回答

昭和十年八月三日

陸軍糧秣本廠長ニ瓶貞

陸軍省副官 牛島 滿 殿



六月陸普第三八六三號ヲ以テ照會ニ係ル首題ノ件別紙ノ通り回答ス



機 關 名		
進 度	研 究 項 目	内 容
X	1 極低温低圧試験設備	1 作戦上豫想セラル、極寒地ノ低温及諸環境ニ必適スヘキ設備本設備ニヨリ行フ。低圧ハ高空飛行ノ場合ニ於ケル航空糧
	2 簡易携帯食(兵糧丸)ノ研究	2 (一)携帯口糧ヨリモ容積重量一層少キモノニシテ一定期間ノ得ル食品ノ研究。(二)上記食品ハ喫食者ニ対シ興奮又ハ馴モノタル事。(三)本研究ノ為ニハ我國古來ノ兵糧丸ハ元ヨリモ参考資料トナス。
	3 航空勤務着用及其他特殊勤務着用糧食飲料及器具ノ研究	3 (一)航空勤務者及戦車等特殊勤務者ニ適應スル糧食飲料ヲ並ニ新成品ノ考案。(二)機上器具等ニ就テモ同断
X	4 空中投下補給方法ノ研究	4 (一)糧秣及飲料水空中投下ニ使用スル落下傘ノ研究。(二)經驗ヲ資料トシテ研究ス。(三)糧秣空中投下ノ地上設備
完	5 玄米もやしノ研究	5 極寒地及不毛地作戦ノ場合最モ懸念セラルセツシニシテ補給
X	6 熱地作戦ニ於ケル糧秣ノ研究	6 (一)熱地生産ノ物資利用法ニ関スル研究。(二)熱地ニ於テ兵糧食品ノ腐敗防止方法ニ関スル研究。(三)熱地ニ於ケル糧秣ノ品種選定ニ関スル研究。(四)熱地ニ於テ送送スル糧秣品ノ梱(一)熱地ニ於ケル豆もやし製法、以テハ成リ可ク現地ニ出張
X	7 野戦電炊自動車ノ研究	7 米及水ヲ收容スル飯櫃ニ直接電流ヲ通流シテ炊キ上グル抵能率増大ノ炊事車ノ研究。
X	8 野戦炊事車ノ改良研究	8 (一)燈止メ装置ノ改良研究。(二)使用法ノ規格研究。(三)附考案。(四)自動車式炊事車モ併セテ研究ス。
X	9 漚水車ノ改良研究	9 稍大ナル輕便ニシテ能力大ナル漚水車ノ改良研究
X	10 搬水車及不凍搬水車ノ改良研究	10 (一)大型搬水車ノ改良研究。(二)不凍搬水車ノ改良研究。
X	11 携帯口糧ノ研究	11 (一)新携帯口糧ノ製造及改良ニ関スル一切ノ研究。(二)新工法良ニ関スル研究。(三)内容量ニ関スル研究。(四)包装ニ関スル
	12 乾野菜ノ研究	12 (一)乾野菜製造指導要領ノ決定。(二)乾野菜ノ貯性ニ関スル研究。(三)着色劑ニ関スル研究。
X	13 野戦調理ノ研究	13 (一)戦時野戦ニ於ケル送送糧秣及現地物資ヲ以テスル各種ノ(二)上記研究ニ於テ極寒地及極熱地特殊調理ニ就テ留意ス。
X	14 野戦患者食炊事ノ考案	14 野戦病院等ニ於テ患者食調理ニ要スル特殊炊事具ノ考案研
X	15 兵食及患者食ノ研究	15 (一)軍隊炊事改善ノ目的ヲ以テ兵食並ニ患者食ノ品種ノ選定(二)兵食改良ノ普及ヲ行フ為メ調理講習ヲ開催ス。
X	16 野戦簡易製パン及設備ノ研究	16 (一)軍用生パンノ速製法及製造材料ノ研究。(二)軍用生パン定及携帯法ノ研究。
	17 乾燥醬油味噌ニ関スル研究	17 (一)液体乾燥装置ノ根本的研究。(二)小型乾燥器ニヨル諸試験
	18 携帯田舎飲料劑ノ研究	18 従來ノ研究ヲ進メ炭酸瓦斯ヲ使用セサル殺菌ヲ兼ネタル清



# 廠 本 秣 糧 軍 陸

概 設	担 當 者 名	發 表 誌 名
備ヲナシ他ノ項目ノ極寒環境ニ要スル一切ノ研究ヲ食ノ研究ノ為トス。	1 川 嶋 主 計 正	
栄養ヲ保持シ且ツ或ル期間相当ノ活動力ヲモ維持シ散的効果ヲモ興ヘ且少量ヲ以テ満腹感ヲモ興ヘ得ルリ新書能率ノ食品及外國軍隊ノ使用シアル新食品等	2 向 井 技 師	
國戰地ニ於テ實際使用セシ實驗ニ鑑ミ既成品ノ改良	3 川 嶋 主 計 正	「航空事情」「主計団記事」「糧友」
中投下糧秣ノ梱包法等ノ研究。以上ハ何レモ戰地ノ研究	4 川 嶋 主 計 正	「航空事情」「主計団記事」
上玄米ヲ以テスルモやしノ研究。	5 川 嶋 主 計 正	
馬ノ食慾及嗜好増進ニ関スル研究。(三)熱地ニ於テ秣ノ耐久試験ノ実行。(五)熱地追送ニ適スル糧秣品包法ニ関スル研究。(七)熱地向遠効性食糧ノ研究ノ機会ヲ得テ研究ス。	6 川 嶋 主 計 正	「熱地給養必携」トシテ當廠高等官集會所ヨリ發行
杭式装置ヲ以テ炊飯スル機動迅速、無火無煙、保溫	7 阿 久 津 主 計	
屬品ノ改良研究。(四)輕快ナル沸水兼用ノ炊事車ノ	8 阿 久 津 主 計	
	9 阿 久 津 主 計	
	10 阿 久 津 主 計	
ニ對スル製造機及設備ニ関スル研究。(二)主食副食改良研究。(三)小型乾パンノ包裝ニ関スル研究	11 向 井 技 師	
研究。(三)膨張乾野菜ノ研究。(四)圧搾乾野菜ノ研	12 橋 本 技 師	
調理方法ヲ研究ス	13 川 嶋 主 計 正	
究	14 川 嶋 主 計 正	
献立ノ調製調理方法ヲ研究シ軍隊ニ普及ヲ計ル。	15 川 嶋 主 計 正	「軍隊調理法」トシテ當廠ヨリ發行
ノ圧搾携帶法ノ研究。(三)軍用生パンノ副食物ノ送	16 阿 久 津 主 計	各種製パン機關誌「パンの科学」阿久津主計著 發行本
(四)現在装置ノ改修。(五)電気式採集装置密閉篩、排	17 向 井 技 師	
餅性ノ研究。	18 橋 本 技 師	
飲料劑ヲ研究ス。		



- 19 携帶馬糧 / 研究
- 20 馬糧代用品 / 研究
- 21 鉄道及船舶輸送中 / 馬糧 / 研究
- 22 軍隊炊事設備器具 / 研究
- 23 戰地 = 於テ糧秣其他 / 簡易製造加工設備器具 / 研究
- 24 移動倉庫 / 研究
- 25 野戰鑿井機其他 / 給水器具 / 改良研究

- 19 (一)携帶馬糧ヲ實戰ニ使用セル經驗ヲ資料トシ之ヲ改良ニ用ル (二)携帶馬糧ノ澱粉價形狀包裝紙質等ノ研究 (三)大量生産
- 20 陸軍獸醫學校ト連繫シ研究未済ニ屬スル雜穀植物等ニ就テ
- 21 (一)鉄道及船舶輸送中ノ馬糧ノ膠着劑ノ研究 (二)生産設備
- 22 (一)能率の衛生的炊事設備器具ヲ研究シ軍隊ノ普及ヲ計ル (二)研究ノ要目ノ主ナルモノ次ノ如シ。①新設軍隊炊事設備ノ設備ノ研究。②混和機ノ考案。③瓦斯炊事ノ改良。④食器
- 23 (一)戰地ニ生産スル雜穀類等ノ簡易加工器具即チ穀類膨脹機 (二)戰地ニ於ケル製粉法加工調理法簡易食物製造法等ノ研究
- 24 野戰ニ於ケル迅速ナル軍隊ノ行動ニ伴フ簡易組立式移動倉庫
- 25 (一)極寒地用揚水器、防霜天幕其他附屬器材ノ改良ニ關スル研究 (二)粘土水不凍鑿井機ノ考案

- 1 極寒地ニ適スル糧秣 / 研究
- 2 食品 / 凍結防止及其他ニ關スル研究
- 3 補給至便糧食 (粉末食品等) / 研究
- 4 馬以外ノ軍用獸駝馬 / 野戰飼餌 / 研究
- 5 沸水車 / 改良研究
- 6 滿洲產雜穀類ノ利用法ニ關スル研究
- 7 化学兵器ニ對スル野戰糧秣 / 研究
- 8 小麥粉以外ノ穀粉ヲ主要材料トシテパン / 研究
- 9 米麥搗精貯藏ニ關スル研究
- 10 戰地追送用ノ詰合せ食品 / 考案
- 11 戰用炊具 / 改良研究
- 12 野戰簡易冷蔵庫 / 改良研究

- 1 極寒地作戰準備上下記ノ事ヲ研究ス。 (一)戰地給養ニ適スル (二)戰地ニ追送スル糧秣品ノ梱包法ニ關スル研究 (三)戰地ニ物質利用法ニ關スル研究 (四)戰地ニ於テ飲食品ノ保温及生物給與方法ニ關スル研究
- 2 凍結ノ食品ニ及ボス影響ヲ研究シ極寒地給與上ノ資料トシテ (一)凍結ノ食品成分ビタミン其他ニ及ボス影響ニ就テシキ食品ヲ作り出ス研究 (二)凍結セル飯ノ研究
- 3 (一)空中ヨリ投下補給ニ適スル食品ノ研究 (二)急速ナル目的ニ適應スル為粉未食品等ヲ一層研究考案ス (四)乳
- 4 豫想作戰地ニ於ケル獸駝トシテ駝、水牛或ハ軍用犬、
- 5 (一)極寒極暑兼沸水車ノ研究 (二)九一式沸水車ノ改良研究
- 6 戰時ノ食糧不足ヲ緩和シ及戰場環境ノ物資利用ヲ容易ニスル如キ利用法ヲ研究シ之ヲ軍隊及地方普及ヲ圖ル
- 7 毒瓦斯設備ニ對シテ次ノ項ヲ研究ス (一)極寒地糧秣ノ成 (二)糧秣ニ對スル瓦斯防護ノ教育資料ノ作成 (三)ラレタル動物屠殺肉食用價値判定研究 (四)簡易破爛
- 8 パンノ主要材料トシテ小麥粉ニ代フル雜穀粉玄米粉等
- 9 (一)混無砂精米、精麥ノ理化學的經濟的食味の綜合比較貯藏力保存食味貯藏ニ及ボス影響ノ研究
- 10 最前線部隊又ハ端末部隊ニ對スル追送糧食ノ各種ノ考案各種ノ副食物其他ノ食品材料ノ詰合せヲ研究
- 11 (一)電制炊具ノ改良研究 (二)小形電制炊具ノ改良研究
- 12 組立式野戰簡易冷蔵庫ノ改良研究

- 1 列車炊事設備及方法 / 研究
- 2 戰地ハノ生物補給 / 研究
- 3 携帶濾水器 / 改良研究

- 1 (一)列車輸送中又ハ列車戰鬥中貨車上ニ於テ炊事スルニ使テ (二)同一炊事方法ノ研究
- 2 生魚、生獸肉及生野菜類ヲ遠隔ノ戰地ニ追送補給スル設備ノ研究 (一)四季氣溫ノ變化ニ關連シテノ研究 (二)地
- 3 携帶濾水器ノ能力改良ニ關スル研究



<p>スル研究。 設備ノ研究。 平時戦時ノ馬糧代用價値ヲ研究ス。</p>	19 木 全 獸 医	
<p>ノ研究。 改良考案。①軍隊炊事器具小冊子ノ製作。②揚物具ノ改良。③根菜切裁機ノ改良。</p>	20 川 嶋 主 計 正	「陸軍獸医学学校研究報告」
<p>粉機等ノ考案</p>	21 木 全 獸 医	
<p>ノ研究。①極寒地ニ於ケル鑿井設備ノ改良ニ関スル</p>	22 阿 久 津 主 計	「糧友」
<p>糧秣品殊ニ体温体カノ保持シ得ル糧食品ノ研究。</p>	23 阿 久 津 主 計	「糧友」
<p>於ケル糧秣ノ防凍試験ニ関スル研究。(四)寒地生産ノ糧食給與並ニ防凍方法ニ関スル研究。(六)寒地ニ於テ</p>	24 川 嶋 主 計 正	「陸軍主計団記刊」糧友
<p>又極寒環境設備ヲ利用。(七)凍結防止法ノ研究(貯藏庫中研究)。(三)凍結食品ノ実格試験。(四)凍結ヲ利用シ新</p>	25 川 嶋 主 計 正	
<p>撃ニ伴フ自送補給ニ至便ナル食品ノ研究。(三)以上ノ工場ヲモ利用シテ一部製造ノ研究ヲ行フ</p>	1 川 嶋 主 計 正	「極寒地給養必携」トシテ当廠高等官集合所ヨリ発行
<p>用機ノ野戰的給飼ニ関スル研究</p>	2 川 嶋 主 計 正	「全上」 全上
<p>①九三式沸水車ノ実用研究</p>	3 橋 本 技 師	
<p>烏洲ニ産スル尨大ナル雜穀類ヲ日本人ノ食料ニ適</p>	4 川 嶋 主 計 正	「軍犬誌」
<p>斯防護法ノ作成。(二)極暑地糧秣瓦斯防護法ノ作此素消除毒法ノ基礎的研究。(五)瓦斯ニヨリ傷害セ</p>	5 阿 久 津 主 計	
<p>テ以テスル特殊パンヲ研究考案ス。</p>	6 川 嶋 主 計 正	「糧友」
<p>較研究。(三)米搗精法比較選擇研究。(三)級</p>	7 阿 久 津 主 計	
<p>進メテ給養ノ粗悪ニ流レルヲ避クル考慮ヲ以テ</p>	8 阿 久 津 主 計	
<p>①炊具ノ梱包改良ノ研究。(四)保温計桶等ノ研究</p>	9 阿 久 津 主 計	
<p>ル炊事用具ノ考案</p>	10 川 嶋 主 計 正	
<p>方法並ニ之ニ適スル品種等ニ関シ次ノ如ク区分シテ</p>	11 阿 久 津 主 計	
<p>求ニ名帯ニ関連シテノ研究。</p>	12 阿 久 津 主 計	
	1 阿 久 津 主 計	
	2 川 嶋 主 計 正	
	3 阿 久 津 主 計	



様式第一

7.24

機関名		大隊陸軍糧林支廠		
進度	研究項目	内容概説	担当者名	発表誌名
完了	1. 乾パン製造能力増大ノ研究	1. 電ヲ改築セシメテ秋末ノ五吋天盤ヲ有効大焼面ノ柱限ルニ八吋天盤ニ通スルコトヲ極メ簡易ナル工作ニテ改備ヲ改造シ概テ一五%ノ能率増加ヲ得	技師 安原育也	発表誌ニ
	2. 乾燥野菜ニ関スル研究	2. 各種野菜類ノ圧搾製法ノ製法及還元法並ニ粉未製品ノ圧搾及鉄剤ヲ試製研究ノ結果相當成績ヲ得	技師 奥田重雄	同上
	3. 現制乾パンノ欠点除去ニ努メ栄養食味共ニ一層増進シ口糧ニ適スルコトヲ研究	3. 各種油脂ハ動物ハアミンハ、ソヤレツスハ及舟車食用乾パンヲ試製シ研究結果純良ナル搾油ノ現行パンノ改良目的ニ付ニ小豆乾パンニ純良ナル搾製メソッドヲ適量ニ加ヘテ得	同上	同上
研究中	1. 乾パン代用品ノ研究	1. 各種雑穀々類ノ圧搾固形製品トシテノ研究	技師 安原育也	
	2. 内地小麦ニヨル製粉製パンノ研究	2. 乾パンノ製造ニ充分ナル食パン用トシテ尙テ充分ナリ各種小麦ニ付研究ヲ進行	同上	
	3. 乾パン包装及梱包ニ関スル研究	3. 紙製木綿袋代用トシテアルミ箔(ニロハン)防水紙ノ研究及能率の増進的包装設備ノ研究	同上	
	4. 乾パン包装用ブリキニ関スル研究	4. ブリキニ構造改良及水害ブリキ板使用ニ関シ研究	同上	
	5. 電気製パン法ノ研究	5. パン生地自体ノ電気抵抗ニヨル保温醗酵並ニ公上原理ニ付電ヲ利用セシメ大豆生地ノ蒸式・焼パンノ研究	同上	
	6. 研末麦糵ノ研究	6. 経済的摺替作業及成品ノ精白度・胚芽残存率向上ノ目的ヲ以テ研末糵ノ機械改良ニ付研究	一等主計 伊藤禎	
	7. 初摺ニ関スル研究	7. 初摺ノ経済的関係ヲ研究	同上	
	8. 乾パン用木綿袋ニ関スル研究	8. 木綿袋ノ製造設備及製袋方式ノ能率の簡易化ニ付研究	技師 安原育也	
未着手				
備考	1. 本研究事項ハ本廠長ノ示達ニ基テ実施セルモノニ付他ノ機関ニ発表セズ 2. 技師ノ名ハ年度中間ニ於テ進級交付セルモノトス。			



人第12

機関名		字品陸軍糧秣支廠		
進度	研究項目	内容概説	担当者名	發表誌名
完了	1. 軍用罐詰材トテハ階之性ノ試験 2. 各種野菜罐詰ノ研究 3. 軍用罐詰変化原因ニ関ル研究	1. 罐詰材トテ罐蓋並ニ改良スルヲ研究ス 2. 戦時運送用トテ野菜罐詰製法ノ研究ヲス 3. 製造並ニ貯藏中ニ於ケル変化ヲ研究	陸軍技師下間秀雄、陸軍技師内山武夫 、 、長竹貞行 、	ナシ
研究中	1. 各種獸肉罐詰ノ研究 2. 各種魚肉糠糠漬貯藏法ノ研究	1. 戦時資原枚張ノ外製法ノ研究ヲス 2. 戦時運送ニ適ル如ク糠漬法ノ研究ヲ行フ	陸軍技師下間秀雄、陸軍技師内山武夫 、 、長竹貞行	ナシ
未着手	1. 牛肉簡易加工法ニ関ル研究 2. 内面塗料ノ研究	1. 運送用トテ保存並ニ嗜好ニ適スル加工法ノ研究 2. 軍用罐詰用内面塗料ノ研究ヲス	陸軍技師下間秀雄、陸軍技師内山武夫 、 、	ナシ



機關名	陸軍糧秣本廠										
所在地	東京市深川區越中島町										
代表者氏名	二瓶貞夫										
研究部門	軍用糧秣及給養器具=關スル研究										
研究用設備	品目	負數	寸度及能力								
	極低溫低壓裝置	壹台	低壓ハ水銀柱300托低溫ハ零下90度(攝氏)								
	自動包裝機	壹台	1時間7,200個 所要馬力 1/4馬力								
	角錐=ス塗機	壹台	1時間3,600個 所要馬力 3馬力 / 1馬力 /								
研究員	機械	電氣	化學		物理	水產	畜產	醸造	農科	其他	計
			農藝	應用							
	技師及之=準 スル者ノ數	阿松野 2	橋本 3				歌田 1	與田 1		高田 2	9
	技師及之=準 スル者ノ數	高野 5	大石 3	高野 4	金子 1	佐野 1	山 1	鈴木 2	尾越 2	鈴木 8	30
計	7	3	7	3	1	1	2	3	2	10	39
經費	人件費		事業費			設備費		營繕費		計	
	俸給	備人費									
	2245,380	37,901,870	92,441,540			19,627,070				161,215,880	

備考 1. 本設備ハ昭和九年調査提出以後=於ケル試驗研究=係ルベシトス.



様式第=

機 関 名	大政陸軍糧秣支廠										
所 在 地	大政市混区天保町一二〇										
代 表 者 氏 名	支廠長 倉本才雄										
研 究 部 門	糧食品研究										
設 備	1. 理化学試験設備 2. 各種パン、ビスケット製造設備 3. 味噌醬油製造設備 4. 缶詰製造試験設備 5. 乾燥試験設備										
研 究 員		機 械	電 気	化 学	採 石 金	土 建 築	物 理	紡 績	其 他	計	
	技師及之準スル者、教			/						/	
	技手及之準スル者、教	/	/							2	
	計	/	/	/						3	
経 費	人 件 費		事 業 費	設 備 費	管 理 費	計					
	俸 給	備 人 費									
	0	0	1,285 円	715 円	0	2,000 円					

備考 1. 研究員ハ何レモ本分、傍ヲ研究ニ従事シテ該給額ハ計上ス  
 試験研究ニ要シタル決算額ハ計上ス。



機關名	宇品陸軍糧秣支廠										
所在地	廣島市宇品町										
代表者氏名	支廠長美藤心茂										
研究部門	糧食品並化學										
設備	支廠試驗室並=罐詰工場										
研究員		機械	電気	化学	採鉱 冶金	土木 建築	物理	紡績	其他	計	
	技師及之=進 ル者ノ数			一						一	
	技手及之=進 ル者ノ数	=		四						六	
	計	=		五						七	
經費	人件費		事業費			設備費		管理費		計	
	俸給	備人費									
	4,050,000 14	1,200,000 14	595,000 14			0		0		5,845,000 14	

備考 本研究員、総て罐詰製造作業、餘暇ヲ以テ專任ニ非ルモノトス  
從テ經費ハ、區分計上ノ難キニ付、便宜人件費、全部ヲ掲記セリ



動員

毛印

別紙添付(二部)

老 第九五〇 號其七

陸造總甲第四七五號

工業研究情況調査ニ關スル件

昭和十年八月七日

陸軍進兵廠總務部長 三村友茂

陸軍省副官 牛島滿殿

六月六日附陸普第三八六三號通牒首題ノ件別紙ノ通回答ス

陸軍 昭和 10.3.3. 前干大 臣

林

陸

軍

陸軍省 10.38. 第114號 動員課

1950



機關名	陸軍造兵廠 火工廠
所在地	
代表者氏名	
研究部門	

名稱	寸度又ハ能力	箇數	摘要
光度測定器	受光装置 整流装置ハ交流正負兩波ヲ整流 シ電源ハ交流50~110V		
	光電管(甲)ハカリウム・光電管 (乙)モセシウムナリ 最小周期ハ0.7秒以下記録速度 ハ毎時及毎分各60粒 20粒 及 120粒ノ六種	/	
試験機 風温計	管長ハ600粒 有效表面 0.37 平方米 管ハ長 720粒	/	

33



設備					
			管列数 3列 常温蒸気圧力 0.35 平方糎		
		衝撃試験機	30 厘米 (アイソット及シャルビ一両用)	/	
		同上	松村式繰返し打撃試験機	/	
		延伸圧縮測微器	マルテン式	/	
		天秤	秤量 40 斤 感度 50 斤	/	
		屈曲試験機	最大屈曲量 巾 25 糎 厚 19 糎	/	
		顯微測長器	測定範圍最大長 200 糎 精 度 $\frac{1}{1000}$ 糎	/	
	検査機	試験器検査機	最大 60 噸	/	
		同上	最大 5 噸	/	
	其他	冷却器	長 1250 糎 巾 650 糎 高 1250 糎 試取至最大寸同 295 糎 奥行 295 糎 温度調節範圍 +30° ~ -70°	/	







機關名	陸軍造兵廠 火工廠			
所在地				
代表者氏名				
研究部門				
	名稱	寸 度 又 ハ 能 力	箇 数	摘 要
		受光装置		
		整流装置ハ交流正負兩波ヲ整流 シ電源ハ交流50~110V		
	光度測定器	光電管(甲)ハ「カリウム」光電管 (乙)ハ「セシウム」ナリ 最少周期ハ0.7秒以下記録速度 ハ毎時及毎分各60粒 20粒 及 120粒ノ三種	1	
		管ノ長ハ 600 粒 有效表面 0.37 平方米		



設備	試験機	風温計	管, 全長 32,300 耗 管, 列数 3 列 常温蒸気圧力 0.35 平方種	/
		衝撃試験機	30 厘米 (アイゾット及シムス一両用)	/
		同上	松村式繰返し打撃試験機	/
		延伸圧縮測微器	マルテン式	/
		天秤	秤量 40 斤 感度 50 斤	/
		圧曲試験機	最大圧曲量 巾 25 耗 厚 19 耗	/
		顯微測長器	測定範圍最大長 200 耗 精 度 $\frac{1}{1000}$ 耗	/
	検査機	試験器検査機	最大 60 噸	/
		同上	最大 5 噸	/
	其他	冷却器	長 1250 耗 巾 650 耗 高 1250 耗 試験室, 冷却器 巾 295 耗 奥行 295 耗 温度調節範圍 +30° ~ 高 295 耗	/







動員

毛

陸軍省 第一九五〇

白甲第四一號

工業研究情況調査ニ關スル件回答

昭和拾年七月卅壹日

陸軍自動車學校長 佐々木吉良

陸軍省副官 牛島 滿殿

六月六日附陸普第三八六三號通牒ニ係ル首題ノ件  
別紙ノ通由答ス



中村 肇

陸軍



陸 1950



機関名				
進捗	研究項目	内容	担当者名	発表誌名
完了	1. 薪自動車ノ研究 2. メタノール自動車用燃料トシテノ研究 3. 大豆油ヲ自動車減摩油トシテノ研究 4. エチリン・グリコール不凍液ノ研究 5. 酒精混合燃料ノ研究 6. 魚油混合油ヲ自動車減摩油トシテノ研究	1. 自動車=木炭ヲ使用シテノ研究ハ能=完了シタルヲ以テ今日ハ普通乗用=使用シル薪材ヲ自動車燃料トシテ使用シテノ實用化セントス 2. メタノールヲ自動車燃料トシテ實用試験ス 3. 大豆油單体及之=精製品ヲ添加シタルモノヲ自動車機関=實用試験ス 4. 「エチリン・グリコール」凍液ヲ自動車減摩油=實用試験ス 5. 揮發油・無水酒精混合燃料ヲ各種自動車=實用試験ス 6. 市販魚油混合油自動車減摩油=實用試験ス	1. 三木吉平 2. } 3. } 尾田秀雄 4. } 5. } 6. }	部外=發表ス
研究中	1. 自動車用燃料ノ研究 2. 耐寒用自動車減摩油ノ研究 3. 動植物油ヲ自動車減摩油トシテノ研究 4. 石炭ヲ得ルルヘキ代用燃料ノ研究 5. 自動車用「ディーゼル」機関燃料ノ研究 6. 自動車用空冷式機関ノ研究	1. 薪・木炭以外ノ固體及液体燃料ヲ得ルル揮發油=匹敵スル自動車用燃料ヲ得ントス 2. 始動・運行時=減摩良好ナル潤滑油ヲ求ムル=在リ 3. 資源豊富ナル動植物油自動車減摩油トシテノ研究ス 4. 石炭ヲ得ルル揮發油=研究ノ研究ス 5. 「ディーゼル」機関燃料油ノ理化學的性状ト實用成績トノ關係ヲ研究ス 6. 酷熱地及酷寒地=於ケル作戦上ノ見地ヨリ自動車機関=水凍式=代フル=空冷式ヲ以テシタル場合=於ケル自動車ノ性能上=及ボス影響ヲ研究	1. 三木吉平 2. } 3. } 尾田秀雄 4. } 三木吉平 5. } 尾田秀雄 6. 三木吉平	部外=發表ス





陸軍省第一九五〇



陸軍

被第一五八五號

工業研究情況調査ニ關スル件回答

昭和十年八月十日

陸軍被服本廠長 矢部 潤二

陸軍省副官 牛島 滿 殿



本月六日陸普第三八六三號ヲ以テ照會アリタル首題ノ件別紙ノ  
通回答ス



別紙第一號

機關名		陸軍被服本廠		担当者名	発表誌名
進度	研究項目	研究内容	概説		
完了	1. 炭塩化石炭酸	1. 研究目的	従来皮革防霉剤	横山 薫	研究調査彙報
	2. 防霉効力=1割	重鉛「トリケル」酸の相当効力	炭塩化石炭酸、防霉剤塩化	瀬下 精一	第四號
了	研究	トリケル酸の相当効力	炭塩化石炭酸、防霉剤塩化		
		水に対する溶解力	炭塩化石炭酸、防霉剤塩化		
了		炭酸、遊離	炭塩化石炭酸、防霉剤塩化		
		之を完全に防霉剤とする目的	炭塩化石炭酸、防霉剤塩化		
完了		2. 判定	炭塩化石炭酸、防霉剤塩化		
		炭酸(商業名)の炭酸	炭塩化石炭酸、防霉剤塩化		
完了		研究目的達成	炭塩化石炭酸、防霉剤塩化		
		効力顯著	炭塩化石炭酸、防霉剤塩化		
X	2. 炭塩化石炭酸	1. 研究目的	現用織布経糸用糊防霉剤	横山 薫	研究調査彙報



	織布殺糸、防微効力 力=開スル研究	強化更鋸、防微効力充分ヲアルト加水分解ニ依リ 強酸ニ以テ臭ヲ以テ改善ノ要アルニ依リ 已判定、非炭化炭酸ニ依リ、防微効力効 ニ依リ地質ニ影響、價格ニ低廉ナルヲ以テ織布殺糸 ノ防微効力ニ適當ト認ム	山縣 瀨下精一	第六號
了	3. 二硫化炭素ニ依リ防 虫殺効力ニ關スル研究	研究目的 二硫化炭素、使用煙蒸法ニ 對テ揮散性、對スル透過力、試驗ニ依リ同製品 ノ格納法改善ノ實ニテ、 2. 判定、決、揮散性内ニ生付ル被服害虫 ニ硫化炭素煙蒸法ニ完全ニ死滅スルヲ得	近未 實義 木村 要	研究調查彙報 第五號
了	4. タンニシテ殺劑代用 ニ關スル研究	研究目的 軍用革、タンニシテ殺法ニ由リ、 殺材タル天然タンニシテハ本邦資源極メ乏弱ニシテ 主トシテ南米印度ヲ輸入シタル狀況ニシテ假令戰時軍 靴用革ニハ「クロム」殺法ヲ使用スルニモ底革ハ其品質	横山 兼 瀨下精一	研究調查彙報 第六號



招魂式、四月廿六日午後八時ヨリ十時十分ニ互リ最モ莊嚴ニ行ハレタリ

陸軍

完	<p>1. 研究目的 被服害虫繁殖、第一歩の産卵          2. 研究項目 (1) 産卵期及卵の発生回数          (2) 産卵の孵化過程</p>	<p>研究目的 被服害虫繁殖、第一歩の産卵          2. 研究項目 (1) 産卵期及卵の発生回数          (2) 産卵の孵化過程</p>	<p>近未 實義 木村 要</p>	<p>研究調査彙報 第六號</p>
了	<p>5. 被服害虫の習性          1. 研究目的 被服害虫繁殖、第一歩の産卵          2. 研究項目 (1) 産卵期及卵の発生回数          (2) 産卵の孵化過程</p>	<p>研究目的 被服害虫繁殖、第一歩の産卵          2. 研究項目 (1) 産卵期及卵の発生回数          (2) 産卵の孵化過程</p>	<p>近未 實義 木村 要</p>	<p>研究調査彙報 第六號</p>
了	<p>6. ゴム製品に対する防虫剤の影響          1. 研究目的 各種防虫剤、ゴム製品に対する影響          2. 判定 ゴム製品ハバチガコロルペンゾール</p>	<p>研究目的 各種防虫剤、ゴム製品に対する影響          2. 判定 ゴム製品ハバチガコロルペンゾール</p>	<p>近未 實義 木村 要</p>	<p>研究調査彙報 第六號</p>



	<p>接触の保持を以て時ハ之ヲ多量ニ吸着スル性質ヲ 而シテ吸着ニヨリ他ノ汚染劑ノ場合ト同様染着 受ケ著シク変質軟化スル等ノ台紙製品ノ品質不良 加充不足ナルキ特ニ注意スルニ付</p>		
完	<p>羊毛皮代用アストラカン 地試験研究 研究の目的 防寒材料トシテ使用セラルハ天 然羊毛皮克毛皮類ニ代用シ得ル人工毛皮ノ製作 研究の段 羊毛皮の性質を調査し、その 研究要項 羊毛織物地ヲ以テスル方法ニ 就テ研究シ従来市販品トシテ存在スル「アストラカン」地 ノ基礎ニシテ毛織ノ特ニ長ク毛皮狀ニ仕上ル試験 品ノ作リ之ノ利用價值ヲ判定ス</p>	小川安胡 本田七郎	研究調査彙報 第六卷
了	<p>研究の目的 各種地質材料及其組合ニ ヨリ保溫力ヲ測定シ防寒被服用トシテ最モ効果 且ツ重量輕ク軍用トシテ適當ナルモノヲ得ントス</p>	小川安胡 長野正満	研究調査彙報 第六卷
完	<p>防寒地質材料保 温性ノ研究</p>		



完	<p>15. 米下置用紙                  9. 防寒材料トシテ各種和紙、調査試験</p>	<p>2. 判定 アストロカント紙、組合の場合及毛布紙、紙、組合の場合ニ種ニ就テ研究結果熱防止トシテ使用スル和紙ノ位置、最外部トシテ場合最ニ効果大ナリ</p>		
了	<p>10. 断熱性材料トシテ厚地フェルト、試験</p>	<p>各地産出和紙十五種、蒐集シ生産紙代用價値、試験セントス</p>	<p>小川安胡 内藤豊二郎</p>	<p>研究調査彙報 第六號</p>
了	<p>11. 軍用被服地質熱</p>	<p>2. 判定 鉄試厚地フェルト、一般ニ比較的断熱性火シテ柔軟且彈性アルニ要及容積積火、且吸水性アルトス 敷物用ニテ綿布若シテ麻布、表裏ニ併用スルヲ可ナリ</p>	<p>小川安胡</p>	<p>研究調査彙報</p>
了	<p>11. 軍用被服地質熱</p>	<p>1. 研究、目的 太陽直射下ニ於ケル各種被</p>	<p>小川安胡</p>	<p>研究調査彙報</p>



11. 夏用被服補助具の研究 目的 被服の熱吸収程度を測定し、防暑被服  
 地質夏衣袴地質トシテ最ニ防暑効果アリ且ニ軍用  
 トシテ適當ナル被服地質並ニ染料色相ヲ得ルニ  
 2. 判定 (1) 地質 防暑被服地質トシテ赤  
 袴地トシテ経緯井麻製トシテ緯密度ヲ比較的小セル  
 人夏衣袴地トシテ右ニ準ル地質又ニ耐久力  
 失ハサル程度ニ於テ綿製ノ組織密度ヲ粗セル地質  
 ハ防暑効果大ナルトス (2) 染料 地質適當ナルニ依  
 リバ鍍物染料トシテ不適當ナル「インゲン」染料トシ  
 用スルニ更ニ有効ナルトス (3) 色相 現制茶褐色  
 ヲ濃度稍淡クシ「クリーム」色ヲ加味ルニ色相可トス

完

了

了

了

12. 氷上通過用補助具の研究 目的 極寒地ニ於テ河川湖水平山 鉄太郎

等、氷上通過、際滑走ヲ防ズルニ  
 2. 研究要領 材料鉄製トシテ形状ハ亀甲式直

第六節

六方乙年及... (倒置文字)

共軍 樂隊



陸軍

完		線式ニ種トシ革紐ヲ以テ靴ニ着裝シ得ル如ク構造ス		
了	13. スキ一	積雪地ニ於テ野外ノ行動就中行軍傳令機動	平山 銆次郎	研究調査彙報
	此種皮革製	務等ニ利用スル目的ヲ以テ研究ス	小澤 政一	第六號
研	1. 皮革利用ニ関スル研究	軍用ニテ利用上最モ適當ナル皮革ヲ選シ原料取	小川 安胡	
		得ル間ニ適法ヲ求メテ之ヲ改良ス	内藤 豊三郎	
究	2. 人造纖維利用ニ関	國産各種人造纖維種人造絹絲等ニ就テ其基礎的	小川 安胡 大田 七郎	
	研究	性能ヲ試験シ利用價値ヲ研究ス	内藤 豊三郎	
中	3. 靴底ノ防水加工法	靴底ノ防水性能ヲ有シ防水劑ノ防水加工法ヲ研究ス	小川 安胡	
	又法ヲ研究ス	靴底ニ於テ地質ノ可燃性ヲ防止シ得ル防火劑並ニ其	内藤 豊三郎	
	又法ヲ研究ス	又加工法ヲ研究ス	小川 安胡	
列	4. 皮革利用ニ関スル研究	從來ノ研究ニ引續キ主トシテ鞣法ニ就テ研究ス	横山 薫	
	5. 老皮補強法ノ研究	鞣材及革打材料等ニ就テ研究ス	瀨下 精一	
	6. 各種防虫劑利用及	其安價ニシテ防虫効力大ナル藥劑ヲ含有其使用法	近未 實義	
	防虫劑ノ研究	ヲ決定セントス	木村 要	



	皮革製品、含水量、 乾燥度、 研究	皮革製品、製作、際多量、水分、含有セシムルヲ以テ 乾燥度、 研究	横山 薫 堀 三雄
研	皮革製品、含水量、 乾燥度、 研究	皮革製品、製作、際多量、水分、含有セシムルヲ以テ 乾燥度、 研究	横山 薫 堀 三雄
究	防寒被服着装法、研究	各種気象、下、被服着装状態、於、身体各部に 被服着装法、研究	小川 安朗 長野 正満
中	高湿、於、防暑被服着装法、研究	各種気象、下、被服着装状態、於、身体各部に 被服着装法、研究	小川 安朗 長野 正満
10.	杵式背囊	重量、負荷状態、合理的、 研究	平山 銆次郎



		陸軍	
未 研 究		気ヲ良好ナラシムル鳥枠式背囊ヲ案ス	大久保吾郎
	11. 電熱航空眼鏡	研究目的 主トシテ極寒地ニ於ケル飛行機操縦者用眼鏡ノ防曇力ヲ附與ス	花坂長閑 高見 益次
		2. 研究要領 硝子面ニ変式トシ中間ニ「エコー」線ニ配線シ電熱頭中ニ接続シ得ル如ク構造ス	
中 途	12. 寒熱地兼用天幕	研究目的 軽量ニシテ防寒並ニ防暑力ヲ附與シ取扱ノ便ヲ得ル天幕ヲ案ス	平山 銈次郎 小澤 政一
		2. 研究要領 幕体ニ変式トシ寒地ノ場合内幕ノ熱対流ノ顧慮ヲ保護シ内幕内ニ炊事ヲ得ル構造ヲ附屬シ又熱地ノ場合裾幕入口等ニ蚊帳地ヲ用テ通風並ニ防蚊効果ヲ附與スツル幕材方法ヲ簡單容易ニ案ス	
		3. 寒地用携行天幕	研究目的 携行天幕ノ構造ヲ改良シ部隊携行ノ便ヲ收容用ノ天幕ヲ得ルニシテ



		研究要領 携行用天幕	
研		研究要領 携行用天幕	
		研究要領 携行用天幕	
究		研究要領 携行用天幕	
		研究要領 携行用天幕	
中		研究要領 携行用天幕	
		研究要領 携行用天幕	
手		研究要領 携行用天幕	
		研究要領 携行用天幕	
未		研究要領 携行用天幕	
		研究要領 携行用天幕	
着		研究要領 携行用天幕	
		研究要領 携行用天幕	
手		研究要領 携行用天幕	
		研究要領 携行用天幕	



包装之各戸に一箇宛交付スルノ準備ヲ爲ス

四月廿三日 委員、委員附、臨時勤務員、一尉及少年團員十名、國

陸軍

別紙第二號

機関名	陸軍被服本廠			
所在地	東京市王子区赤羽町			
代表者氏名	矢部潤二(廠長)			
研究部門	被服装具並ニ之原料材料加工製作ニ関スル研究			
	名稱	寸度又ハ能力	個數	備考
設 備	シヨツパー織物強力試験器	測定能力 500kg	2	
	ペロー式織物強力試験器	全 上 100~300kg	3	
	織物摩擦試験器		3	
	織物擦摩試験器		1	
	織物弾力試験器		1	
機	織物デンスメーター		1	
	糸強力試験器	測定能力 50~100kg	4	
	ジョンネスピット糸検燃器		1	
	耐水度試験器	測定能力 150kg	2	

第10



		保温測定器	測定能力 0 ~ 100 度	2	
		纖維強力試験器	全上 475	1	
設	試	光澤計		1	
		織物破裂抗力試験器	測定能力 ~ 10 度	1	
		勞研式布帛通風測定器		1	
	驗	注水力試験器		1	
設	試	シパー強力試験器	測定能力 下 100 度	1	
		ヘリックス強力試験器	測定能力 1000 度	1	
備	機	皮革摩擦試験器		1	
		皮革抽出試験器		1	
		ニール耐度試験器	測定能力	1	
		エルメット耐裂試験器	一平方吋 72 度	1	
		ゴム老化試験器		1	
		ゴム強力試験器	測定能力 200 度	1	

國民廿三日 委員、委員長、書記、委員、一語、及、中、國、員、十、名、



1. 被檢品ノ用手ノ或ハ目録處ニ詳察無難測原種ノ本技諸果ヲ採ルル

陸 軍

設 備	檢 査 機	ゴム摩擦試験器		1		
		ヘスアイヴス比色計		1		
		茸坪測定器	測定能力	45平方米	1	
		綿麻布検査器取機			3	
		絨布検査機			1	
		絨布要機			1	
備	作 機 械	粗類検査機		1		
		其他				
		恒温恒湿装置	湿度 10~40度 湿度 50~80%		3	
		冷凍装置	零下 50度(概)			

カ



	設備費					其他					計
	機材	電氣	化學	採冶	土木建築	物理	紡績	其他	計		
研究員	技師及之 準之者數		1	3			3		7		
	技師及之 準之者數	1	1	4			2		8		
	計	1	2	7			5		15		
經費	人件費		事業費		設備費	管理費		計			
	俸給	備人費									
	23,600.000	17,220.000	27,475.000		1,120.000	23.000		74,445.000			
材料	材料					1					
	材料					1					
	材料					3					
	材料					1					
	材料					1					
	材料					1					
	材料					1					

設備所時接











器材

陸

陸軍省

陸軍省 第一九七八號

昭和十年六月十八日 10.6.24

昭和十年六月十八日

工業品規格統一調査會 第一部長

陸軍省

御中

陸軍省 10.6.24 器材課

工業品規格統一調査會第一部第五委員會ニ於テ左記四件ノ規格統一ニ  
関シ審議中ノ処今般別紙ノ通決定致度該規格確定ノ上ハ官民ヲ通シテ  
其ノ実行普及ヲ期セラルヘキモノニ有之候ニ付テハ未七月末日迄ニ商  
工省臨時産業合理局内本調査會宛御回示相煩度此段及照會候也

記

- 一 マンガン鑽石燐分析方法
- 二 マンガン鑽石硫黄分析方法
- 三 マンガン鑽石銅分析方法
- 四 マンガン鑽石アルミナ分析方法

別紙  
7月29日  
器材課



六新宿御苑拜觀（同日）

遺族（建武府拜觀者ヲ除ク）八午前十時三十分迄ニ外苑水泳場觀覽席ニ集

永久甲 帝

政務大官 回付 決裁 前後連帶  
參與官 課名

決行（決裁）後  
回覽課名

保存期限

十年

決裁指定

局長委任

決行指定

牛島

房官臣大		課局務主		大臣		件名		番受	
了結	領受	出提	領受	號番	局長	主務	政務	次官	號領
昭和	昭和	昭和	昭和	番第	局長	主務	政務	次官	番第
年	年	年	年	二五	局長	主務	政務	次官	番第
七月	七月	七月	七月	一第	局長	主務	政務	次官	番第
日	日	日	日	一第	局長	主務	政務	次官	番第
(裁決)行決		帶連		局長		高級		起元廳(課)名	
長局	長局	長局	長局	局長	局長	局長	局長	局長	業多規格統一綱本房
長課	長課	長課	長課	局長	局長	局長	局長	局長	
長課	長課	長課	長課	局長	局長	局長	局長	局長	
主務課員	主務課員	主務課員	主務課員	局長	局長	局長	局長	局長	
主務副官	主務副官	主務副官	主務副官	局長	局長	局長	局長	局長	
書記官	書記官	書記官	書記官	局長	局長	局長	局長	局長	
審案	審案	審案	審案	局長	局長	局長	局長	局長	
筆記者	筆記者	筆記者	筆記者	局長	局長	局長	局長	局長	

三三三